

秋田県埋蔵文化財基準資料 2

## 縄文時代土器集成Ⅱ(中期)



2014.3

秋田県埋蔵文化財センター  
Akita Archaeological Center

シンボルマークは、北秋田市浦田白坂（しろざか）遺跡  
出土の「岩佩」です。  
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

秋田県埋蔵文化財基準資料 2

## 縄文時代土器集成Ⅱ(中期)

2014.3

秋田県埋蔵文化財センター  
Akita Archaeological Center

## 序

秋田県埋蔵文化財センターは、昭和56年に誕生して今年で34年になります。この間、昭和50年代後半の東北縦貫道建設事業、昭和60年代の前半の七曲工業団地造成事業、昭和60年代から平成にかけての秋田自動車道建設事業、平成10年代の初期に開始された日本海沿岸東北自動車道建設事業と森吉山ダム建設事業等に伴い実施した発掘調査は、遺跡数にしておよそ400箇所、調査面積は198万m<sup>2</sup>にも及びます。

発掘調査で出土した遺物は、私達の祖先が旧石器時代から現代まで生きてきた証であり、地域の歴史をものがたる貴重な資料です。特に縄文土器は、およそ1万3千前から日本列島でほぼ同じ変遷を辿りながらも、文様や器形に独特の地域色を表現しながら、1万年以上にわたって作られてきました。

当センターでは、これまでの調査で出土した縄文土器を体系的に把握し、公開することを目的に、昨年度は縄文時代土器集成Ⅰ(後期)を、今年度は縄文時代中期の土器を網羅した縄文時代土器集成Ⅱ(中期)を刊行しました。

当センターの業務は、埋蔵文化財の調査と研究、保存活用が三本柱であり、この集成事業も埋蔵文化財研究の一環と捉えております。本書が、県内の縄文土器研究の基礎となり、郷土の歴史教育などにも活用いただければ幸いです。

平成26年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所長 高橋忠彦

## 例　　言

- 1 本書は、秋田県埋蔵文化財センターが昭和60年から平成21年まで発掘調査した遺跡の縄文時代中期の土器実測図を集成したもので、秋田県埋蔵文化財基準資料(縄文土器)の2冊目である。
- 2 本書の実測図には、基本的に市町村が発掘調査した資料は含まれていない。
- 3 本書の実測図は、出典となる発掘調査報告書に掲載された図をデジタル・トレースし、縮尺を1／4に統一して掲載した。
- 4 図版に用いた土器写真右下の番号は挿図および実測図番号を示す。  
(例：7-40→第7図40)
- 5 実測図の出典となる発掘調査報告書名は、土器実測図一覧表に続けて掲げた秋田県文化財調査報告書双書番号との対応表で示した。
- 6 本書の編集は、栗澤光男と小林克を行い、太田誠の協力を得た。

## 目　　次

### 序

### 例　　言・目　　次

I 概　要	1
II 中期の土器	7
III 遺構内一括	29
IV 掲載土器出土遺跡位置図	35
V 土器実測図一覧表	36
VI 図　版	39
奥　付	

## I 概 要

本資料で取り上げるのは秋田県内の縄文時代中期の土器、37遺跡132点である。

秋田県は地勢上、県北部の米代川流域、男鹿半島・八郎潟を中心とした日本海沿岸域、県南部の雄物川流域とに分かれ、中期の縄文土器についても基本的にこの3地域の区分で理解できる（第29図）。県北米代川流域では円筒上層式が、県南雄物川流域では大木式として理解される土器が卓越し、これに日本海沿岸域では北陸系土器が混じる。本資料では円筒上層式から大木式の二大別で配列し、北陸系土器は後者に含めて扱った。また、後述する萱刈沢b3類土器は、円筒上層式に統けて配列した。なお、異なる形態的特徴をもった土器がそれぞれの地域を越える、ないしは特徴が折衷する場合があり、それらは地域によらず配列している。

### 円筒上層式（第1図～第6図）

円筒土器については昭和の初めに、青森県相内（オセドウ貝塚）および同是川中居貝塚の発掘資料に基づいて長谷部言人が命名・大別し<sup>1)</sup>、その特徴を①円筒形の器形、②口縁の突起、③縄組状浮文、④複雑な縄文にあるとした。その後に山内清男によって層位的な出土状況の子細が明らかにされ、細別と編年的位置づけが図られた<sup>2)</sup>。本県にかかるその分布についても早くに長谷部が武藤一郎の報告<sup>3)</sup>を引いて米代川流域に分布することを述べ、さらに日本海沿岸山形北部（吹浦貝塚）まで広がることを述べている。現在では前期にあたる下層式と中期に相当する上層式の大まかな区分は、これもまた長谷部の記述に認められるが、山内はそのうち下層式がa～d式の四つ以上に、上層式がa、b式の二つに分かれ、その後にいわゆる厚手式（加曾利E並行）が続くとした。後年、山内は大和久震平による本県八郎潟北岸、萱刈沢貝塚の上層b式3細別に対し、「これを上層c式としても良い。ただし、d式という区分はない」と発言し、上層式の細別を認めながらもその範囲を明確に区切った。すなわち、萱刈沢貝塚貝層直下から見つかったb2類を上層c式とし、その上の貝層下部に包含された「隆線が逆に沈線となり、縄文地文が全面に施文され（中略）地文の一部を擦消しする手法も現れる」b3類（6頁参考図1左）については、円筒上層式の範囲から除外すべきことの確言であった<sup>4) 5)</sup>。このことは上層式の範囲が加曾利E並行の厚手式直前（陸前では大木7b式）までに限られる原則に従ったためであることが、編年表<sup>6)</sup>や没後に公表となった標本写真<sup>7)</sup>でも知られる（一部を6頁参考図1右に転載）。また、大和久は県北内陸部の孤岱遺跡の調査により、米代川流域の地方型式として仮称孤岱式を設定したが<sup>8)</sup>、これは上層a式の細別となり後にa1式と呼び替えられた<sup>9)</sup>。なお、県南内陸部、現仙北市周辺で戦前精力的に調査した武藤鉄城は、中期の遺跡である神代村削ヶ臺、道心坊清水、札の木（黒倉）遺跡を発掘し、それらの報告に「円筒系」ないし「円筒土器系」の名を用いている<sup>10) 11) 12)</sup>。しかし、これらには少なくとも標式遺跡にある上層式とは特徴を異なる大木式に関わる資料も多く含まれる。

本資料で円筒上層式と見出しが付けたのは第1図～第6図までである。第7図38以降は浮丈（隆帶）によらず沈線により紋様を描く土器で、長谷部の定義からは本来上層式には当たらず、大和久が萱刈沢b3類として分類し、山内も上層式の外に置いた土器である。青森県では石神遺跡の層位と土器の形態的特徴によってc～e式の細別が進められ<sup>13) 14)</sup>、この萱刈沢b3類に相当する土器は上層e式として分類・追加された。層位把握に問題を残す石神遺跡編年であるがその影響は少なからずあり、以来、本県の報告にもたびたびd式、e式の呼称は登場する。しかし、本資料では基本的に長谷

部、山内、大和久の定義した内容でこの土器を理解する立場から、e式の呼び名には従わず、「萱刈沢b3類」をもって、それら上層c式より後に位置づけられる土器を表記する。なお、上層d式は本来、上層c式に当たるべき資料から分離されたものであるから、これも型式名として用いず上層c式に含み込ませて扱う。

上層a式にあたる土器は第1図1から第4図18までである。円筒形の深鉢で平縁の土器（第1図1～第3図12）と、4単位の山形ないし二叉に分かれた突起の付く土器（第3図13～第4図17）とがある。口縁は頸部で屈曲する場合も含め外傾して開き、体部との境に隆帯を貼り付けるか、口縁成形時の粘土帯下端を突出させ、その上に籠ないし半截竹管状の工具、もしくは縄文原体により刻みを施すことが多い。口縁部に縄文原体ないしは絡条体の側面圧痕を横位に数条重ね、一部縦位に区切る場合もある（第1図6）。また、口縁上端から体部との境にかけて縦の粘土隆帯（第2図7、第3図15、第4図17）や、短い横長の突起（第2図8～11、第3図12）、円形のボタン状突起（第3図13・14）、橋状突起（第4図16）を付けることもある。体部の縄文は基本的に原体を横位に回転施文するが、前期來の伝統ないし影響を残して縦位回転施文し綾絞文が現れた例（第2図7、第3図15）もある。なお、第4図18は大きく開いた四単位の波状口縁に絡条体圧痕列を交互斜位に施し、頸屈曲部に刻みをもつ隆帯を貼り付けた土器である。口縁上端ないし上面に刺突列を施し、綾絞文のある縄文が施文された体部が膨らむなど異なる特徴も備えるが、上層a式に相当する土器としてとらえる。

上層a式の遺構内一括出土例は和田Ⅲ遺跡S I 04・S I 06（第23図）、同S I 15・SKF36・SKF38（第24図）にある。

上層b式にあたる土器は第4図19から第6図33までである。円筒形で花弁状の突起をもつ深鉢形土器（第4図19～21、第6図31・33）、平縁で体部下半が丸みを帯びて下降する深鉢形土器（第5図22～25、第6図28～30）、口縁が小波状を呈し体部が同じく丸みを帯びて下降する深鉢形土器（第5図26・27）がある。いずれも頸部で屈曲し口縁部が外傾して文様帯を作り、粘土紐隆帯で飾られる。隆帯上には縄文原体の側面圧痕列が施されることが多く、隆帯間に側面圧痕を数条重ねたり（第4図19）、原体のC字状圧痕列（第4図20・21、第5図22・25）を施したり、籠ないし半截竹管状工具による刺突列（第6図28～31・32）を加えたりする。平縁ないし小波状の深鉢形土器では隆帯に沿った原体の側面圧痕や、圧痕で弧線や渦巻きが表現される場合がある（第5図23・24・26・27）。花弁状突起の深鉢の一部（第6図33）、平縁および小波状口縁土器の全例（第5図22～27、第6図28～30）に、口縁直下に鋸歯状の隆帯がある。体部には基本的に横位回転の縄文が施されるが、結束した異種原体を横位に回転し羽状縄文を表す例も多い（第4図20・21、第5図25、第6図29・30・33）。また、平縁ないし小波状口縁の深鉢形土器では、隆帯および原体側面圧痕の文様が体部にまで及ぶ例があるが（第5図24・26・27）、これは大木7b式との影響関係による。なお、第6図32は花弁状突起をもつ深鉢で、隆帯の貼り付けがない例である。本来、上層式の定義から外れる土器だが、原体押圧によるc字状圧痕列や突起下の一対の環状圧痕など、上層b式と共通する特徴をとらえ、それに含めてとらえる。

上層c式にあたる土器は、第6図34から第7図38までである。花弁状の突起をもつ深鉢で口縁部下、粘土紐隆帯貼付の文様下限は体部へ下降し幅が広くなる。隆帯上には籠状工具の刻目が加えられる例（第6図34・35）と、何も施されない例（第7図36・37・38）がある。前者では口縁部隆帯の

間は籠状工具の刺突列が埋めるが、後者には刺突の施文ではなく、隆帶は体部まで連続した縄文を地紋として貼り付けられる。第7図36・38の隆帶は口縁突起から垂下する上面に連続押圧を施した粘土紐を挟んで、横位に貼り付けられる。

### 壹刈沢b 3類（第7図～第8図）

第7図39から第8図46は、壹刈沢b 3類土器である。一部に花弁状の突起もあるが（第7図40）、他は山形ないし二叉に分かれた突起（第7図39、第8図41～46）の深鉢である。突起部分に細い粘土紐貼り付けがあるが、口縁以下の体部半ばまで広がる文様は縄文を地紋とした沈線で構成される。突起下から縦に垂下する1～3条の沈線を挟んで横位に多段化した構図（第7図39・40、第8図41～43）や、縦の垂線を欠いた横位平行沈線の構図（第8図45・46）がある。これらの土器は漆下遺跡の捨て場での一括性（第28図）から、前記で上層c式と認めた土器（第7図37）および後述する大木8a式に伴う状況にある。

### 北陸系ないし大木式（第9図～第22図）

宮城県大木郡貝塚出土資料を標準とする大木式は中期を通して、大木7a式、7b式、8a式、8b式、9式、10式に分けられ、連続する。雄物川水系以南の土器は基本的にこの六つに区分された型式に当たるとして理解でき、8b式以降は北部米代川流域の土器にも基本的に適用が可能である。なお、体部に籠ないし半截竹管状工具で文様を描き格子目の細密線で間を充填することを特徴とする北陸系の新保・新崎式相当の土器は、日本海沿岸域に見られる（第9図47・48）。

大木7a式に当たられるのは第9図49から53である。49と50は四単位の波状口縁深鉢で、口縁が屈曲外傾しかつやや内湾する。体部上半は大きく丸く膨らみ、体部下半は円筒形に下降するが、底部がやや張り出す特徴は北陸系とした第9図47と共通する。口縁部と体部との境は隆帶で区切られ（第9図49）、その上に連続した刻目を施す（第9図50）。口縁部は縄文のみの施文（第9図49）、または、刺突を加えた細い二条の沈線で曲線的なモチーフを充填し口縁の突起に応じて四箇所に橋状突起を付ける（第9図50）。後者では口縁部文様帶の上限を体部境界同様の刻目列で区切る。また、屈曲外傾する内湾口縁の深鉢では、口縁部に縦の細密沈線を施し（第9図53）、それを地紋に粘土紐隆帶を貼り付ける（第9図52）。なお、第9図51は全面縄文を施した円筒形の深鉢であるが、上下限を二条ずつの沈線で区切られた口縁部に半截竹管状工具によって鋸歯状の文様が施される。和田Ⅲ遺跡のS104竪穴建物跡ではこれと波状口縁で波頂部下に縦の粘土紐隆帶を貼り付け、原体の側面圧痕で二段の鋸歯状モチーフを描く上層a式が一括で出土している（第23図上段）。器形は円筒形であるが、半截竹管状工具による文様施文から、折衷的な特徴をもった土器と判断され、7a式に含めてとらえる。

大木7b式に当たられる土器は第10図54から第11図66までである。平縁の深鉢が基本の器形であるが、四単位の大波状口縁となる深鉢（第10図56）があり、平縁でも口縁一箇所に低い山形突起が付く場合（第10図54、第11図66）がある。また、底径の小さな鉢ないし浅鉢（第11図60～62）もある。深鉢では、屈曲外傾し、かつやや内湾した口縁部の土器（第10図55～57・59、第11図63・66）と、体部から口縁までほぼ直立もしくは口縁上端のみ短く屈曲外傾する土器（第10図54、第10図58、第11図65）、体部に丸い膨らみをもち緩く内湾しながら立ち上がる土器（第11図64）がある。前一者の口縁部の文様は、縄文を地紋とし（第10図55～57・59、第11図63・66）原体の側面圧痕で文様モチーフを描く例（第10図56・57・59、第11図63）があるほか、ボタン状の貼付文を加えたり（第10

図55) 細い粘土紐隆帯で文様を施す例（第10図59、第11図66）がある。後二者では粘土紐隆帯の貼り付けやそれに沿った原体側面圧痕（第10図54、第11図64・65）のほか、沈線での連続した弧線列（第10図58）を描く。部体は基本的に縄文を施すが、口縁部に接する下向き弧線を原体側面圧痕およびそれに粘土紐隆帯を加えて施す例（第11図63・64）がある。鉢ないし浅鉢は、直立した幅の狭い口縁部に細い粘土紐隆帯と原体側面圧痕による文様を施す（第11図60～62）。

7b式に関わる遺構内一括出土例には堂ノ沢遺跡S 1 80での8a式深鉢とともに出土した例（第26図下段）、小出IV遺跡S 1 10で7b式深鉢同士がともに出土した例（第27図上段）がある。なお、本県の研究史上、7b式を中心してその前後を含む資料を多く出土した遺跡としては湯沢市欠上遺跡が知られる<sup>15)</sup>。

大木8a式に当たられる土器は第12図67から74までである。平縁の深鉢が基本となるが、口縁上に大きな装飾突起が付く例（第12図68・70）や、四箇所に小さな山形突起が付く例（第12図72）がある。口縁部～体部形状では、体部上半から緩いカーブで立ち上がり膨みつつ内湾するもの（第12図67・71～73）と、頸部で屈曲あるいは緩く外反し、外傾して開くもの（第12図68～70）がある。前者では縄文を地紋とした口縁部に沈線や粘土紐隆帯の文様が描かれ、後者では縦位沈線列が並び、その下体部にかけて沈線による文様が施される。74は鉢で口縁部に並行沈線が数条重なり、体部にも地紋縄文の上に細い粘土紐隆帯で曲線文が施される。

大木8a式の遺構内一括出土例としては、前記の漆下遺跡捨て場例がある（第28図）。

大木8b式に当たられる土器は第13図75から第14図86までである。口縁に装飾突起のある深鉢（第13図76～78）や、複数の波頂部をもつ波状口縁深鉢ないし鉢（第13図79、第14図81～83）がある。口縁部～体部形状では、8a式と同様体部上半から緩い曲線で立ち上がり膨らみながら内湾するもの（第13図75～78・80）と、体部上半から外反して開くもの（第13図79、第14図81～83）、体部の膨らみから内湾するもの（第14図84～86）がある。口縁部に膨らみをもつ深鉢では体部の文様との間に間隔が設けられ、文様が連続することはない（第13図76～78・80）。

大木9式に当たられる土器は第14図87から第16図98までである。平縁の深鉢が基本的な器形だが、二～四単位の緩い波状口縁の土器もある（第14図87・88、第16図94・95）。体部上半から緩く曲線を描いて外反して開く深鉢（第15図89・91・93、第16図96）と、内湾ないし直立して立ち上がる深鉢（第14図87・88、第15図92、第16図94・97・98）があるほか、口縁部に広い無文部分をもつ土器（第15図90、第16図95）がある。口縁から体部の文様が一体で描かれるより小形の深鉢（第14図87・88）は、口縁部、体部とともに縄文を地紋として粘土紐隆帯の貼り付け及び沈線（いわゆる隆沈線文）で、渦巻きのモチーフを取り込んだ曲線的文様が施される。渦巻きの形状が明確になることで対になって三角形ないし剣菱状のモチーフも表現される<sup>16)</sup>。口縁に無文部分をもつ土器以外は口縁直下から体部まで連続した沈線文が描かれる。文様は縦長の楕円文、縱に並んだ双頭の螺旋文、縦長の逆U字ないしH字形の文様で、磨消縄文の手法が用いられるものとそれを欠くものとがある。なお、口縁部に近い文様の上端では細い棒状工具により円形刺突が加えられる例もある（第16図95・98）。

大木9式の遺構内一括出土例としては、鳥野上岱遺跡S 1 03Aで大木10式と伴った例がある（第25図下段）。

大木10式として当たられる土器は第17図99から第22図132までである。平縁の深鉢が基本的な器形

だが、緩い波状口縁（第19図117、第18図106、第20図119）や小突起を付けた口縁（第18図110、第20図120・121、第22図127・132）、装飾的な山形突起を伴う波状口縁（第21図125・126、第22図130・131）の深鉢がある。また、鉢形土器の口縁に筒口を付けた注口土器（第18図112）、および注口状装飾のある土器（第18図111）がある。体部の文様は磨消繩文で描かれるが、沈線ないし隆線が他と連結することのない独立した配置文として、いわゆるアルファベット文<sup>17)</sup>を主体とした文様（第17図99～102）と、それから派生する末端の咬み合う横位S字文ないし渦巻文とその下に器面を一周する波頭文の組み合わせ（第17図103～105、第18図109）、その変化形（第18図108・110）、波頭文を主体とした文様（第18図106・107）、横に連なる横位Y字文と波頭文の組み合わせ（第19図113～115）などがある。沈線ないし隆線が他と接して描かれる文様では、縦長の椭円を中心にしてその間を弧線で繋ぐ（第20図120・121）、S字ないしクランク状の沈線を連ねるか、横位椭円の片端を重ねて連ねる（第21図122～124）、「ノ」の字あるいは逆「ノ」の字形の無文帯を連ねる（第21図125・126）、また「J」字ないし逆「J」字形文（第22図129・131）がある。ほかに変わったところでは、繩文を用いず区画のなかを葉脈状文で満たした土器（第22図127・128）がある。この種の土器は県内では男鹿半島北岸<sup>18)</sup>などで知られており、北陸地方、石川県の大杉谷式、富山県の串田新II式<sup>19)</sup>との関係が考えられている。

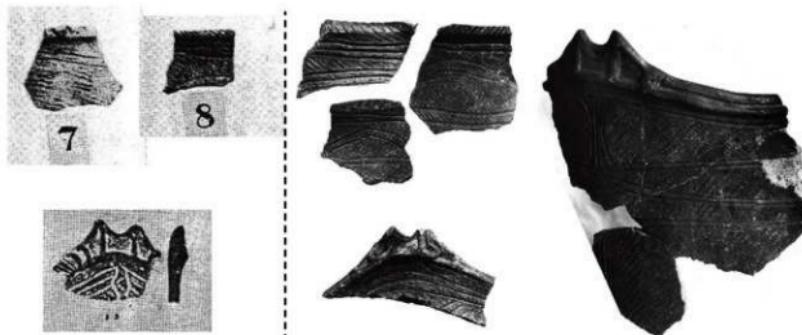
本資料に係る大木10式の遺構内一括出土例としては、堀量遺跡S I 91および鳥野上岱S I 03A（第25図）、家ノ前遺跡S I 23（第26図上段）、石坂台Ⅷ遺跡S I 04および松木台Ⅲ遺跡S I 125（第27図中下段）の竪穴建物内での伴出例がある。

なお、本資料中の実測図集成の対象ではないが、大仙市協和にある米ヶ森遺跡の中期後葉の2号住居址埋甕炉に用いられた土器を参考図2として次頁に示す<sup>20)</sup>。小形だが関東地方を中心にもつ加曾利E4式の深鉢であり、山形県を超えて秋田県南部まで分布する最北の資料として重要である。報告書には2号住居を含め周辺から出土した資料として、円筒上層c式、大木10式土器が掲載されている。

## 註

- 1) 長谷部言人 1927 「圓筒土器文化」『人類学雑誌』第42巻第1号
- 2) 山内清男 1929 「関東北に於ける繩維土器」『史前学雑誌』第1巻第2号
- 3) 武藤一郎 1927 「羽後山本郡荷揚場村上の岱石器時代遺蹟」『秋田考古会誌』第1巻第4号
- 4) 大和久震平 1960 「円筒上層式の細分」『秋田考古学』第16号
- 5) 山内清男 1964 「繩紋式土器・總論」『日本原始美術』I 注(4)  
この山内発言とその後の石神遺跡編年との問題については、下記にまとめている。  
小林 克 1994 「円筒上層式土器」『繩文時代研究事典』東京堂出版
- 6) 山内清男 1937 「繩紋土器型式の細別と大別」『先史考古学』第1巻第1号
- 7) 山内清男先生没後25年記念論集刊行会 1996 『画龍点睛』
- 8) 大和久震平 1958 『北秋田郡森吉町内沢孤岱遺跡調査報告』秋田県文化財保護協会
- 9) 註(4) 文獻
- 10) 武藤鉄城 1933 「羽後國仙北郡神代村削ヶ墓遺跡—円筒土器遺跡—」『史前学雑誌』第5巻第3号
- 11) 武藤鉄城 1933 「円筒土器埋藏二例」『史前学雑誌』第5巻第5号
- 12) 武藤鉄城 1938 「秋田縣仙北郡札の木遺跡発掘報告」『史前学雑誌』第10巻第4号
- 13) 江坂眞弓 1970 『石神遺跡』㈱ニューサイエンス社

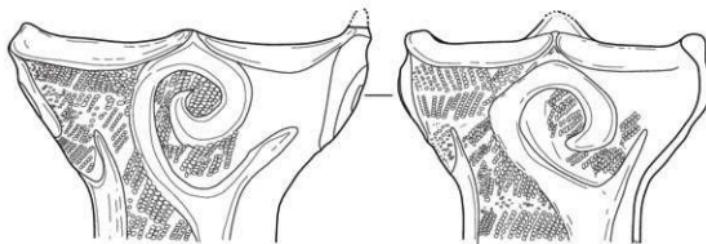
- 14) 村越 潤 1974 「円筒土器文化」御雄山閣  
山内は中居貝塚の層位を記述した際、上層式包含層が褐色土の堆積を含み二次堆積よりもなることを、明治期の田小屋野貝塚の記録も引きながら明らかにしている。これに対し、石神遺跡では同じように認められる褐色土を岩木山起源の降下火山灰とし、上層式の細別を進めた。層位発生に関しての認識の差がこのような齟齬の一因である。現在では三内丸山遺跡をはじめとして特に上層式段階に中居貝塚のような人為的二次堆積が広沢に認められ、盛土遺構として認識されている。
- 小林 克 2010 「円筒土器文化の盛土遺構」註1・2『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究－予稿集－』
- 15) 鎌口宏・西村正衛 1956 「秋田県雄勝郡久上遺跡発掘報告」『古代』第18号
- 16) この二例の類例については註7) 文献図版117に大木9式との解説があり、それに従った。
- 17) 柳澤清一 1980 「大木10式土器論」『古代探査』早稲田大学出版部
- 18) 男鹿市教育委員会 1976 「泉野遺跡発掘調査概報」男鹿市文化財調査報告書 第1集
- 19) 狩野 瞳 2008 「串田新式・大杉谷式土器」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 20) 協和町教育委員会 1971 「米ヶ森遺跡発掘調査報告書」



大和震平 1960 図2・図3 より

山内先生没後25年記念論集刊行会 1996 図版86・図版90・図版93 より

参考図1(「葦刈沢b 3類」[左] および「円筒上層式以後の土器」[右])

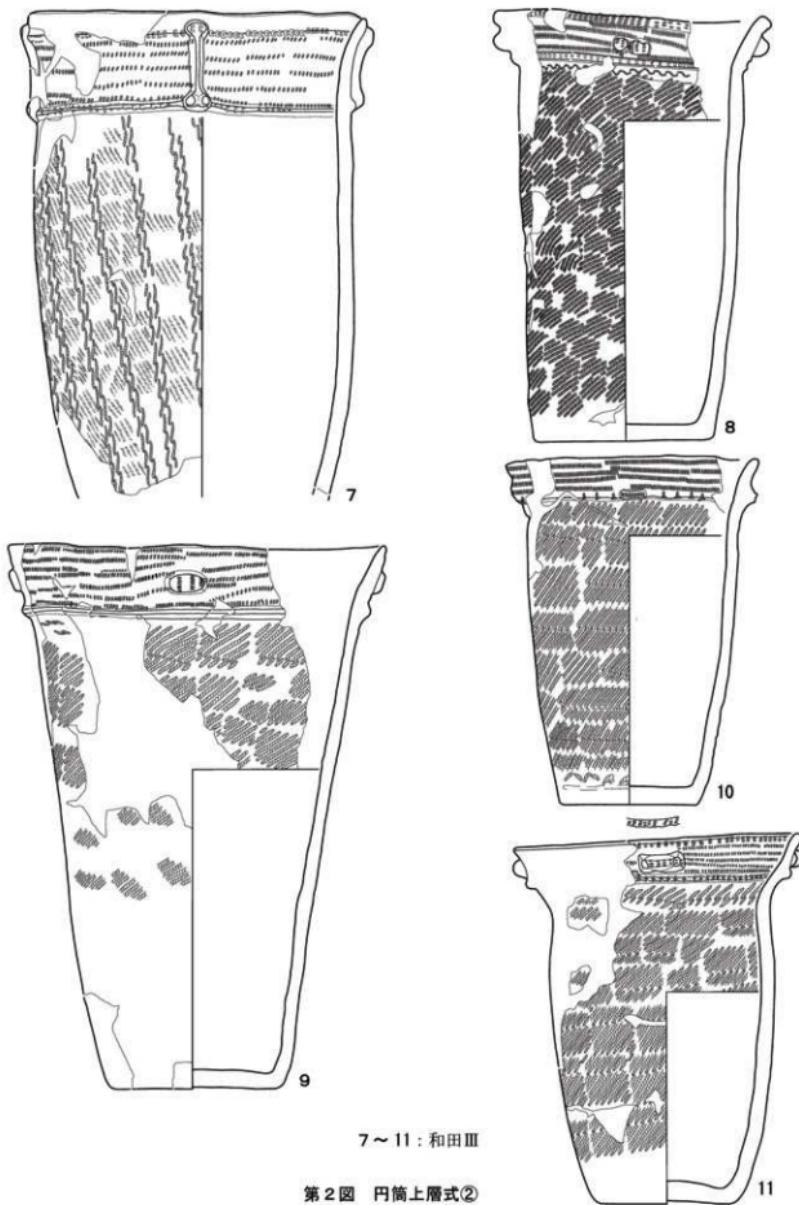


協和町教育委員会(1971) 図8より

参考図2(大仙市米ヶ森遺跡出土土器)

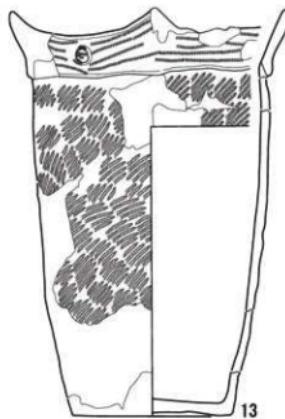
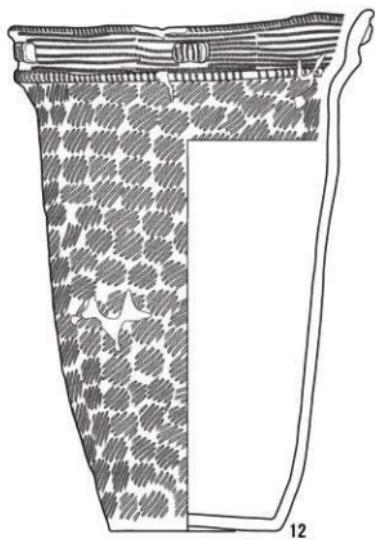
II 中期の土器



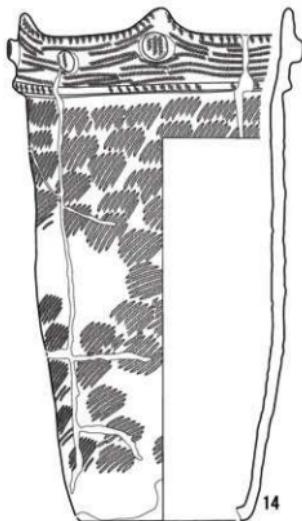


7～11：和田Ⅲ

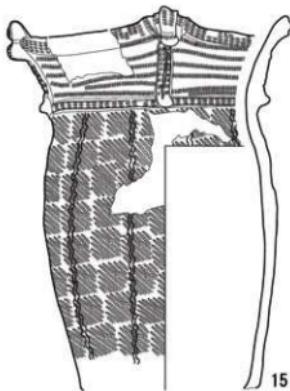
第2図 円筒上層式②



13



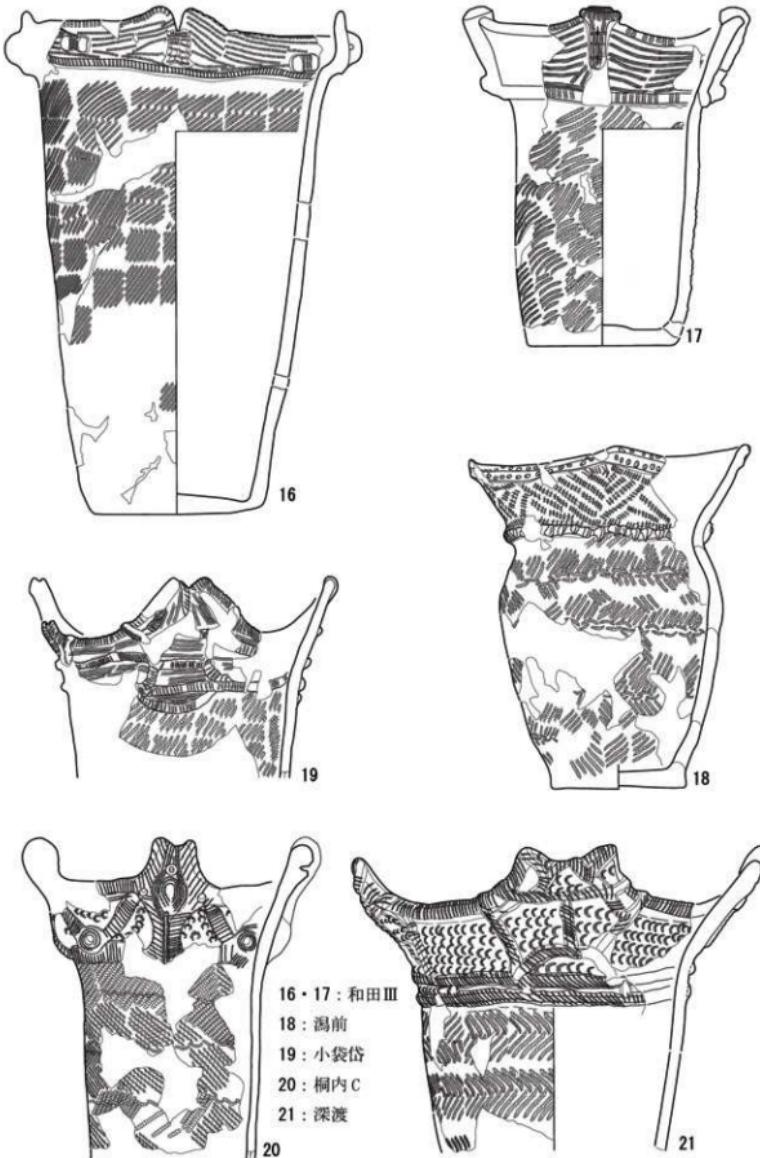
14



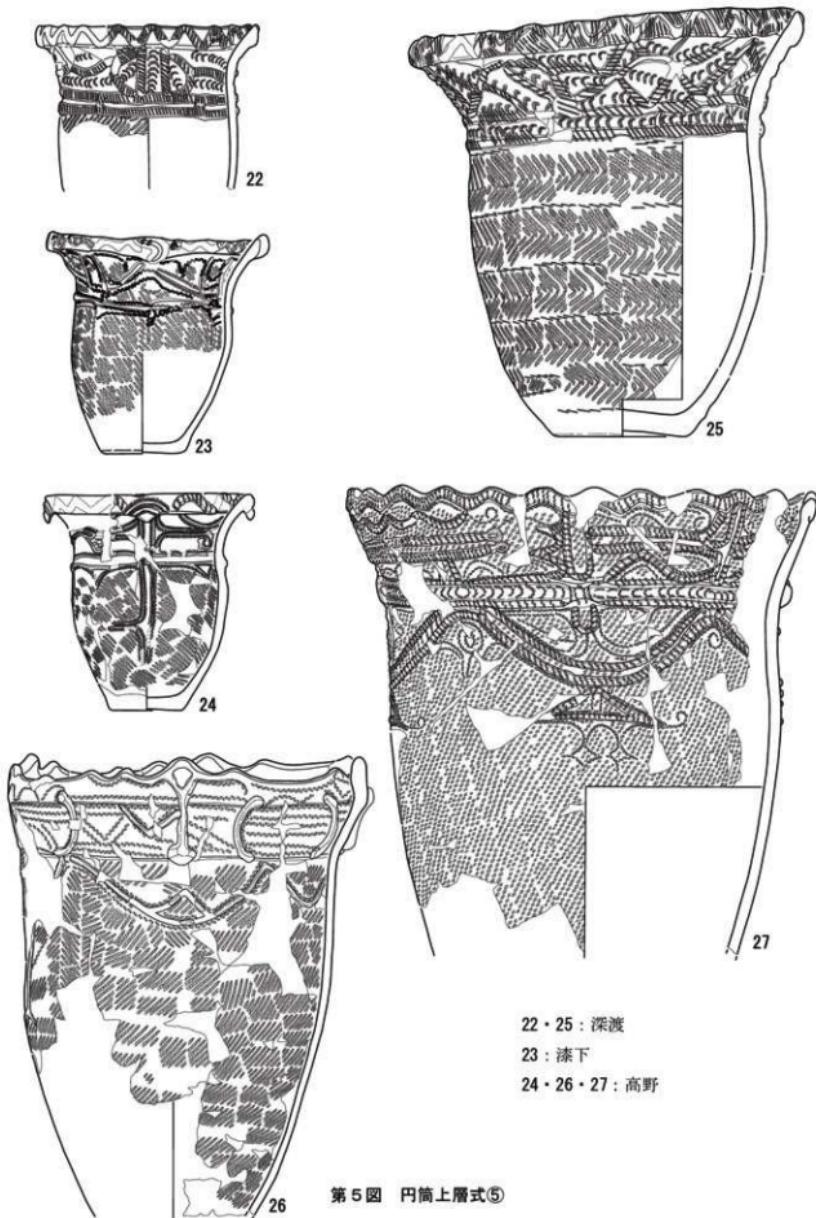
15

12 ~ 15 : 和田Ⅲ

第3図 円筒上層式③

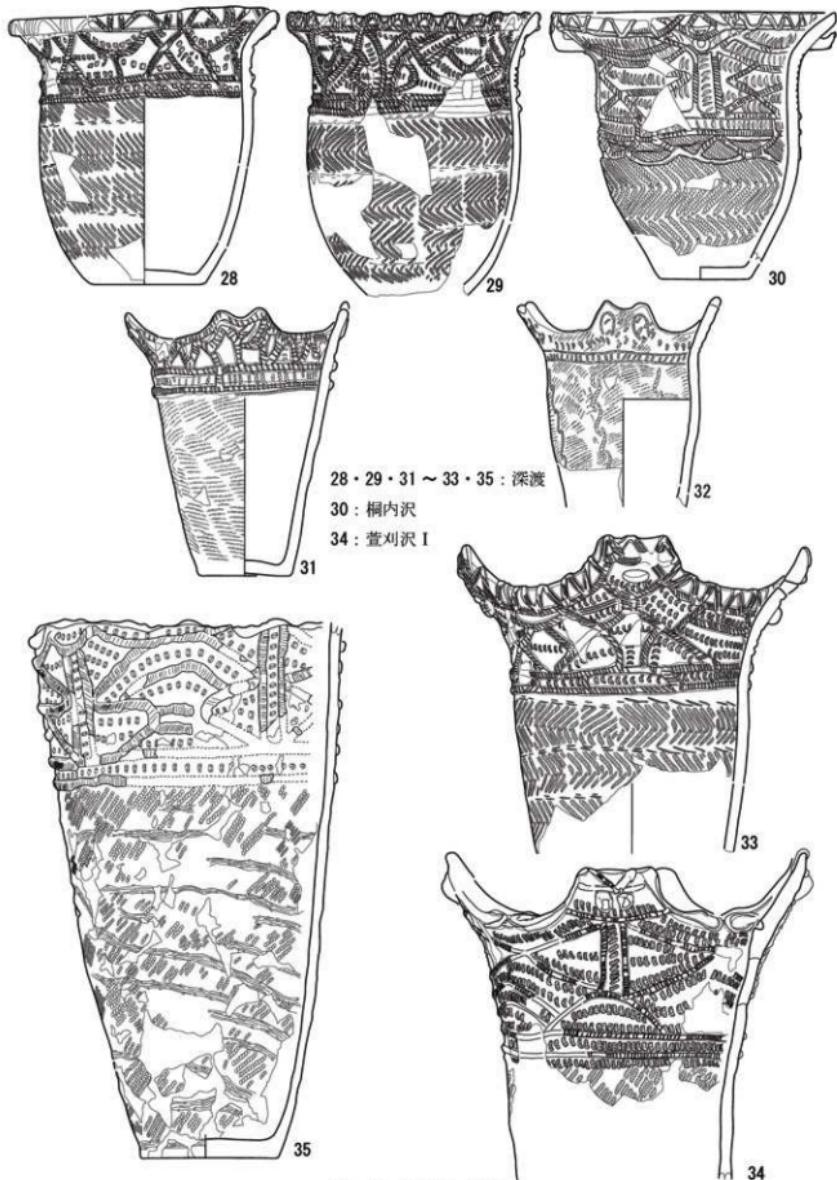


第4図 円筒上層式④

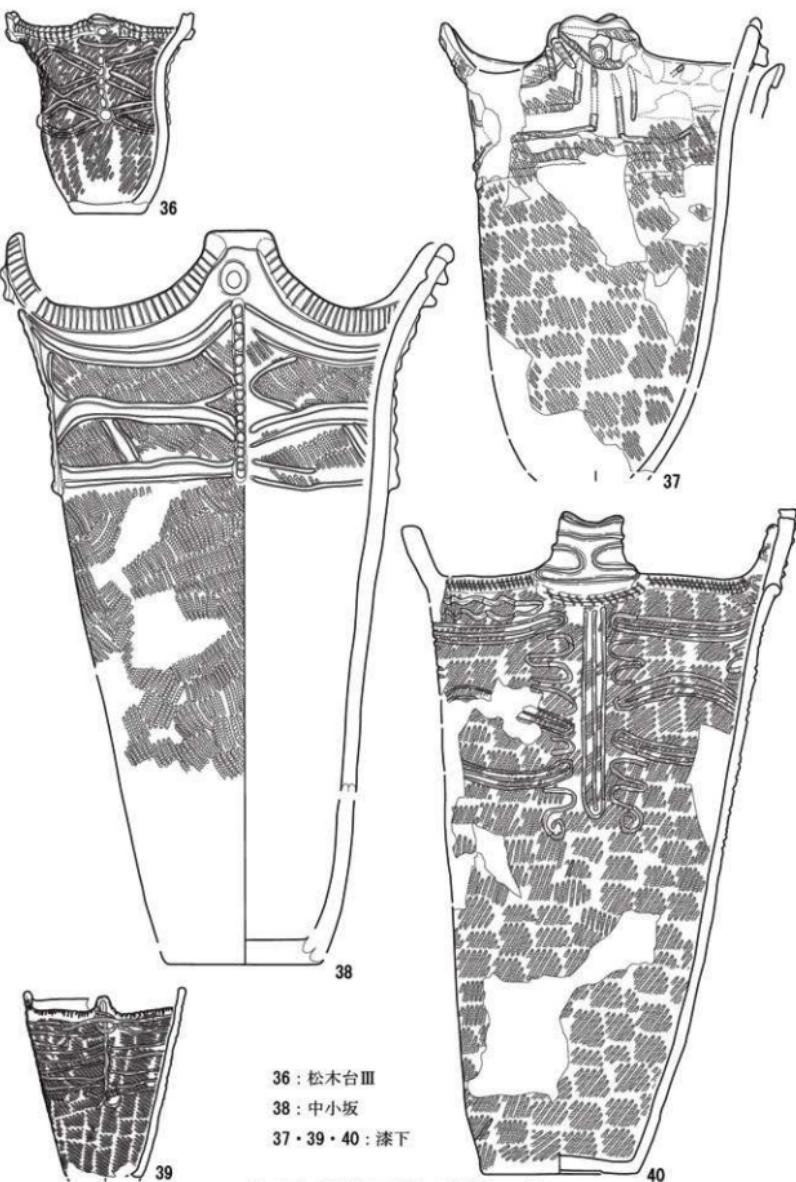


22・25：深渡  
23：漆下  
24・26・27：高野

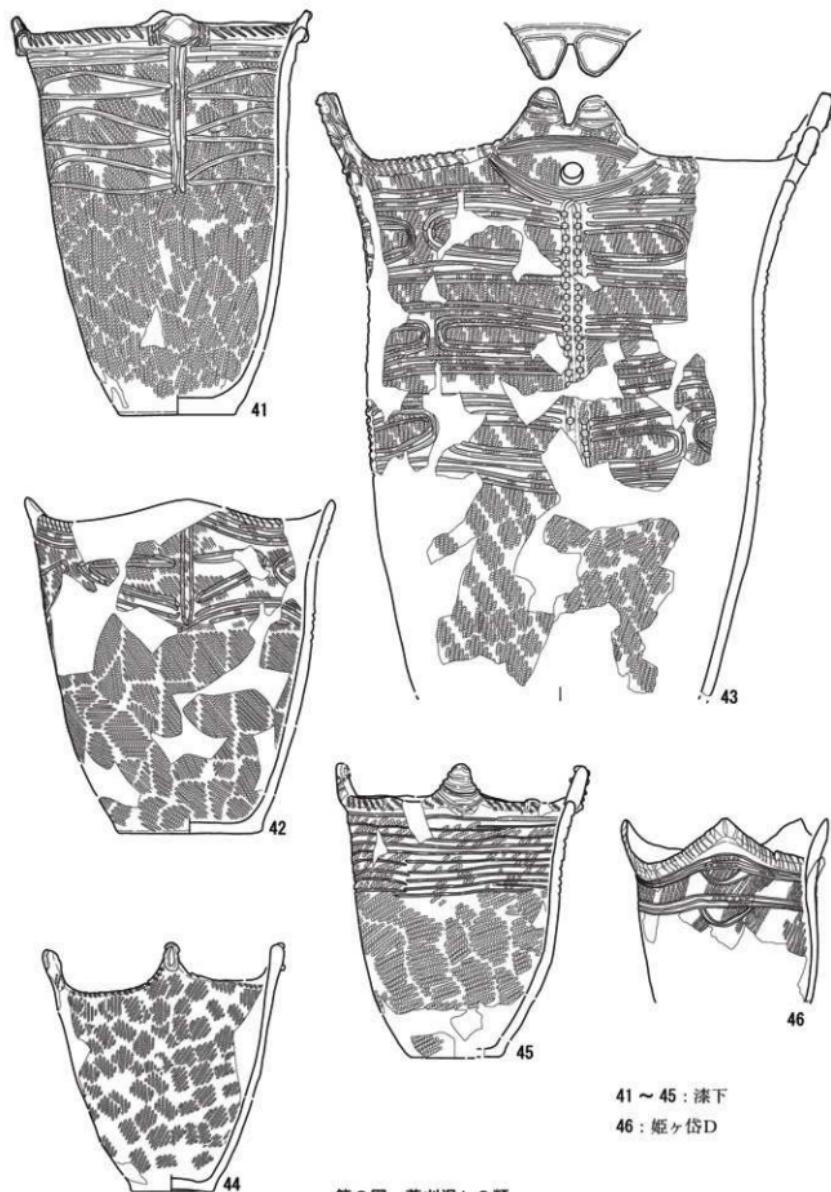
第5図 円筒上層式⑤



第6図 円筒上層式⑥



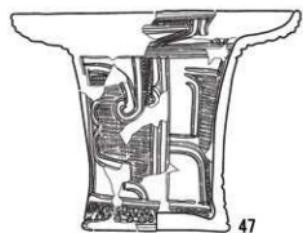
第7図 円筒上層式⑦、萱刈沢b 3類



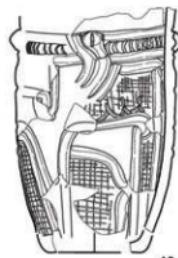
41 ~ 45 : 漆下

46 : 姫ヶ岱D

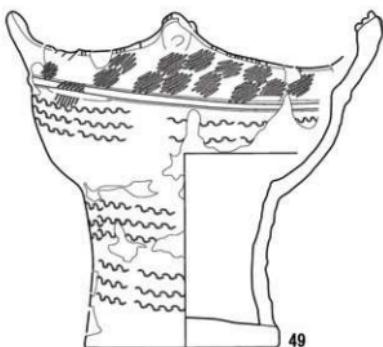
第8図 萱刈沢b 3類



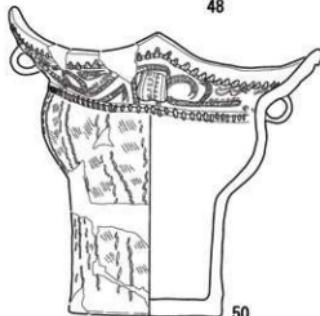
47



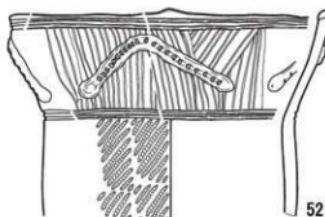
48



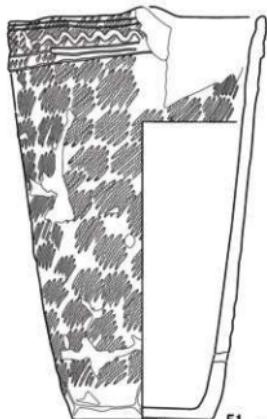
49



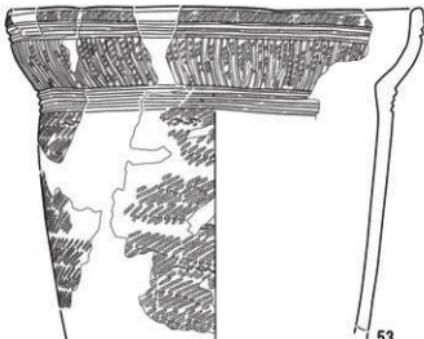
50



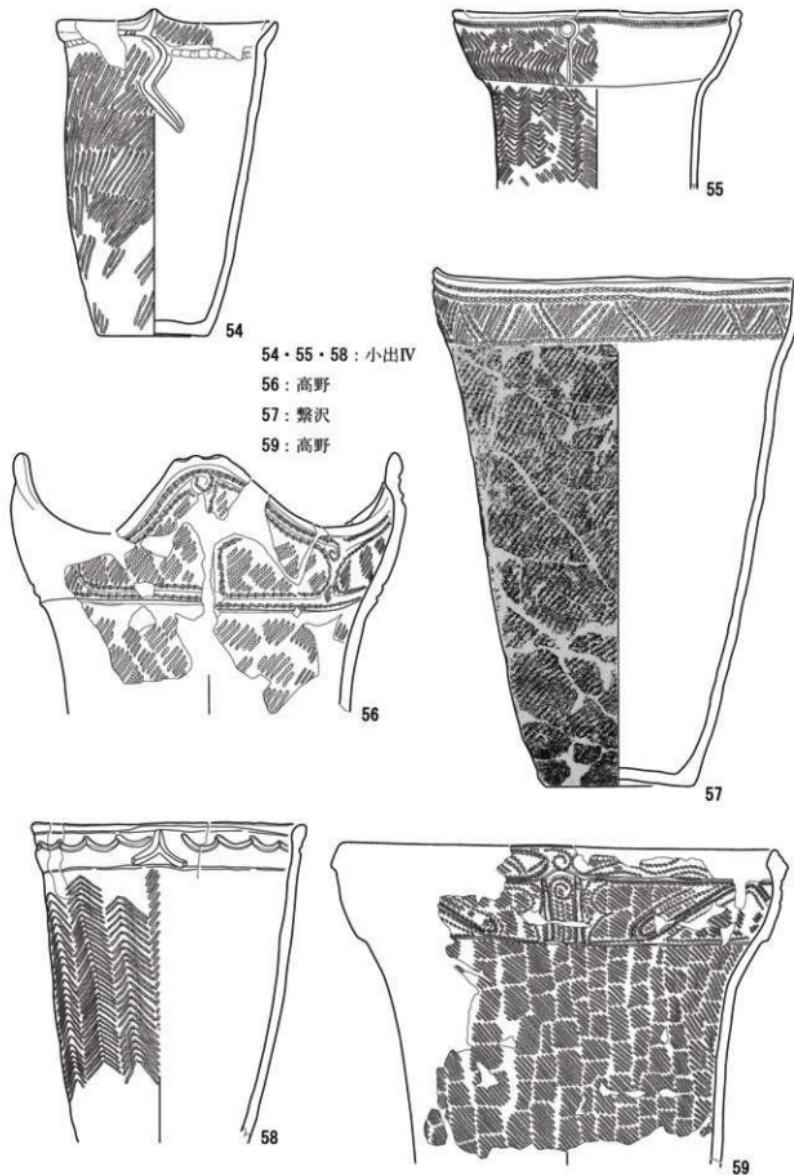
52



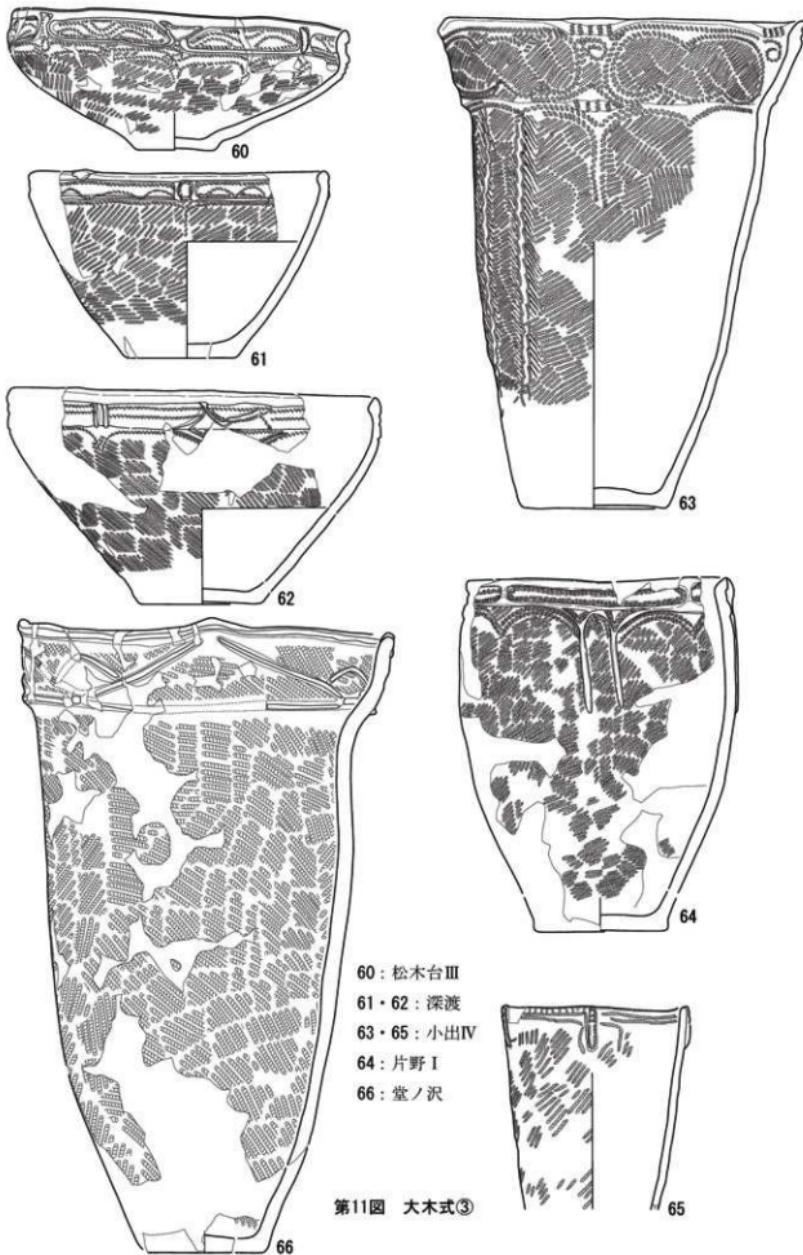
51 第9図 北陸系・大木式①



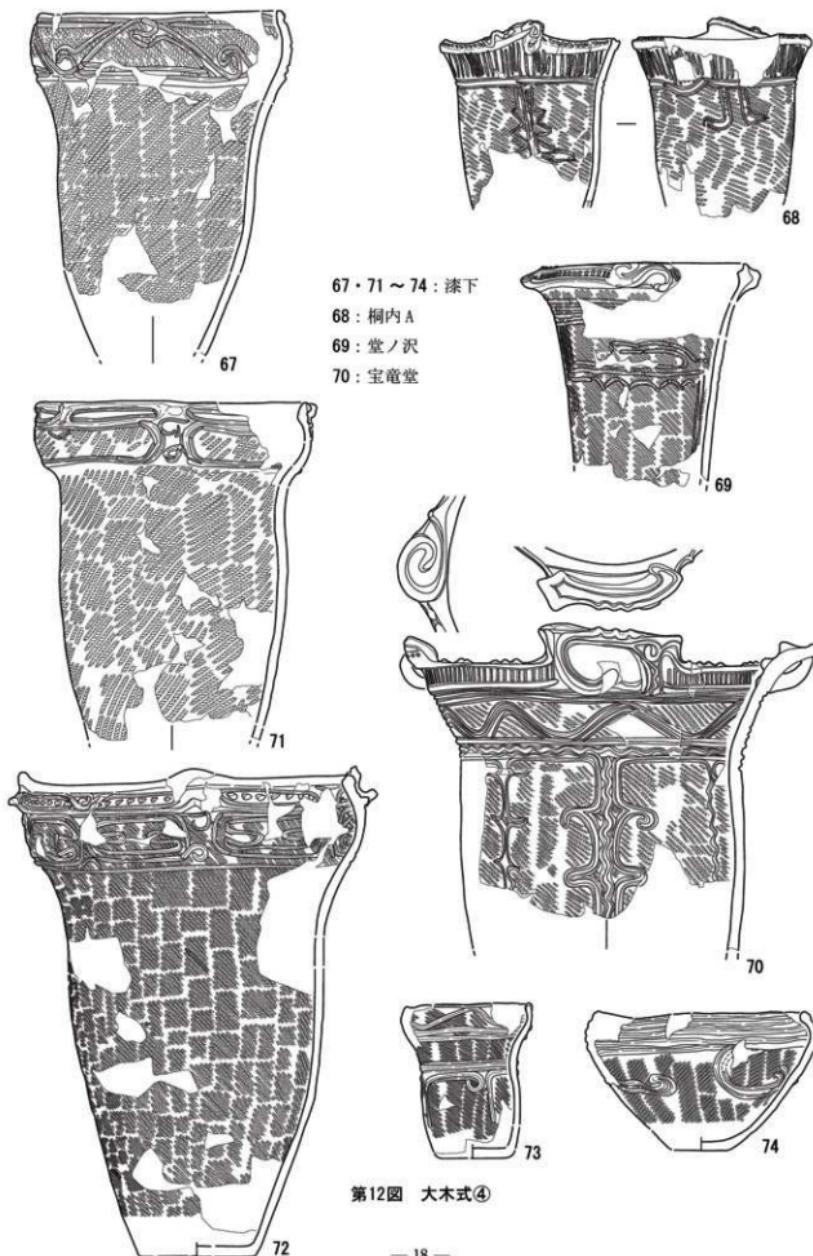
53



第10図 大木式②



第11図 大木式③



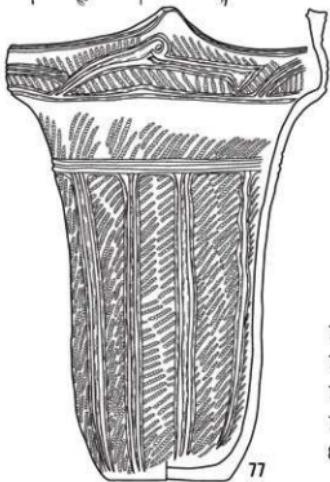
第12図 大木式④



75



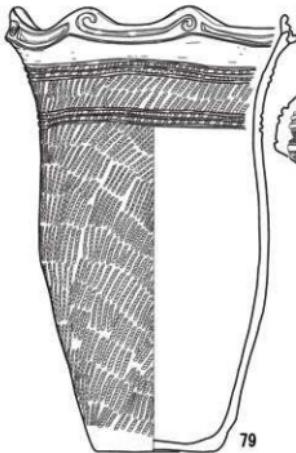
76



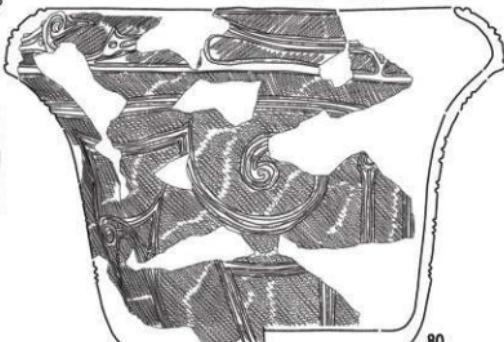
77



78

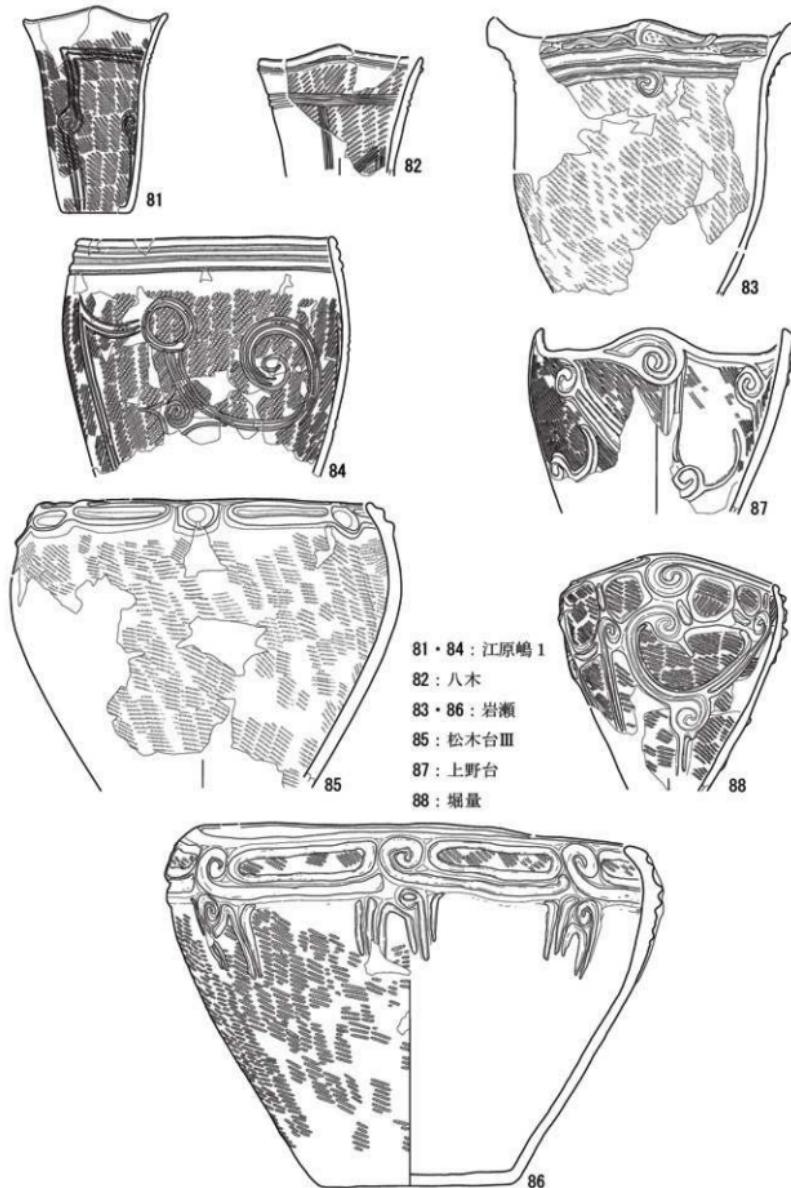


79

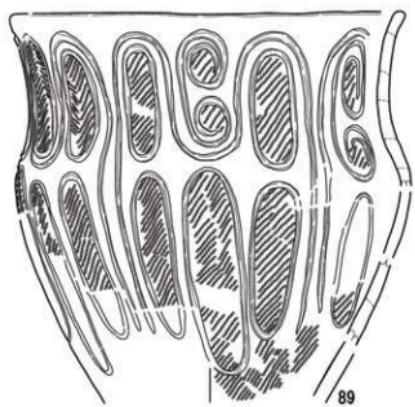


80

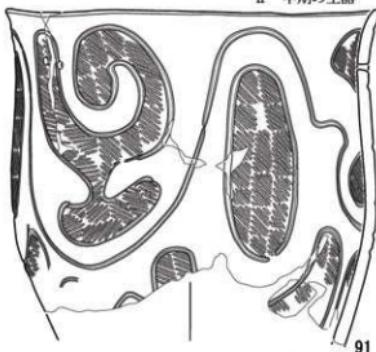
第13図 大木式⑤



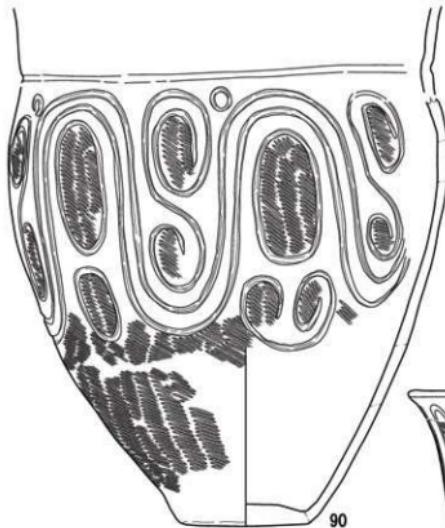
第14図 大木式⑥



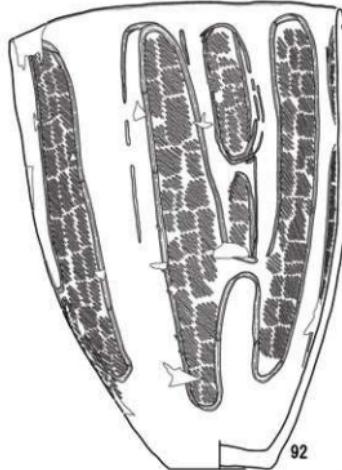
89



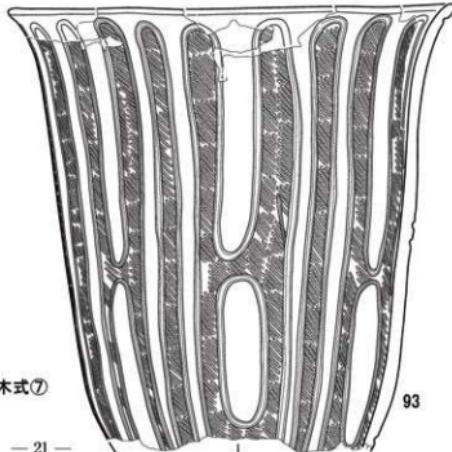
91



90



92



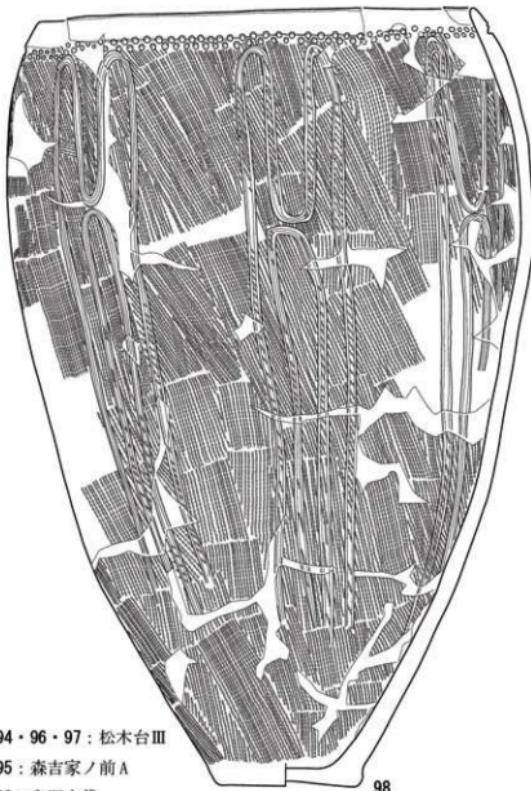
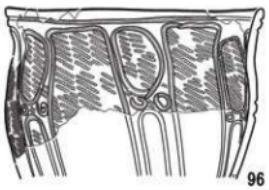
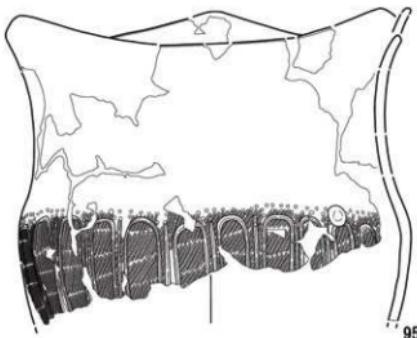
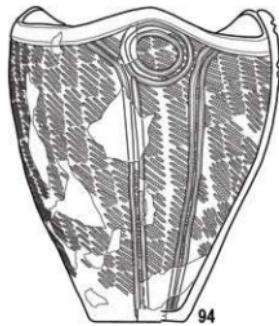
93

89・90：上熊ノ沢

91・93：松木台Ⅲ

92：森吉家ノ前A

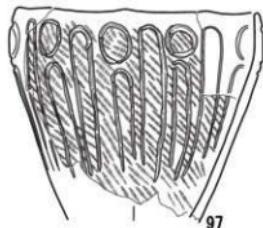
第15図 大木式⑦



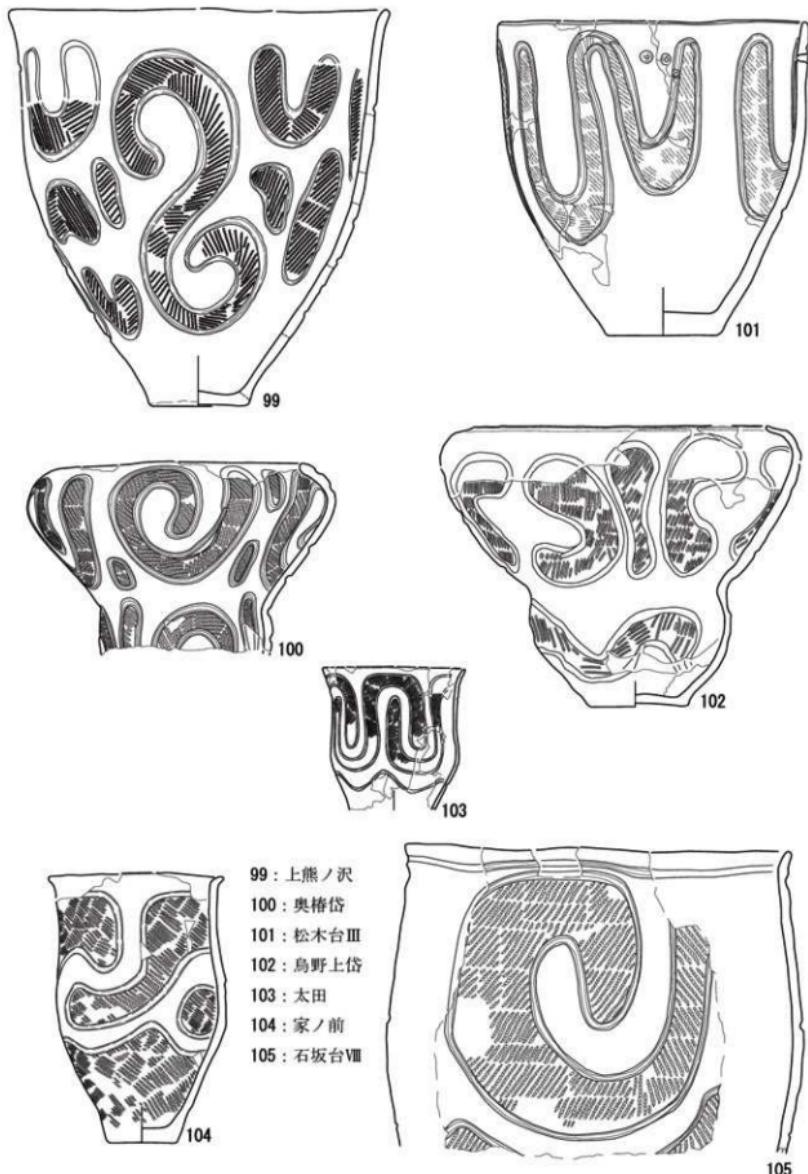
94・96・97：松木台Ⅲ

95：森吉家ノ前A

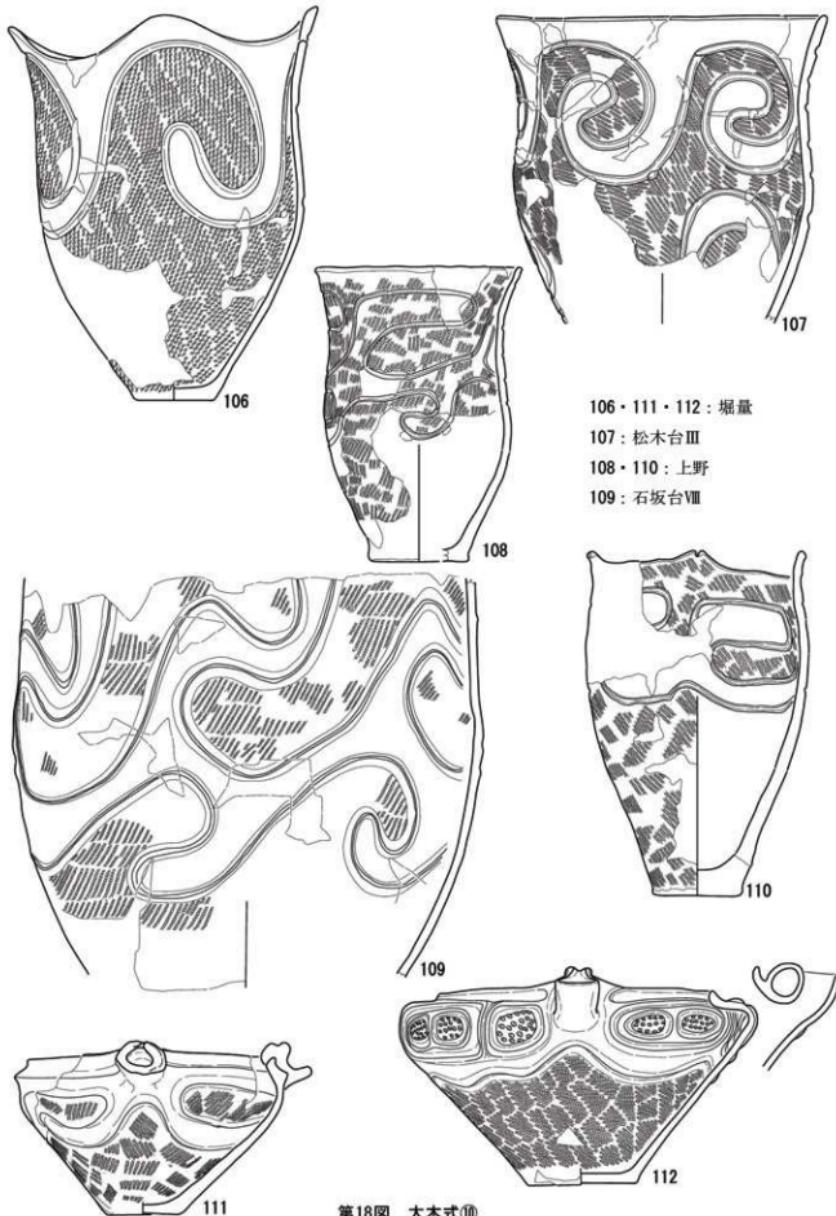
98：鳥野上岱



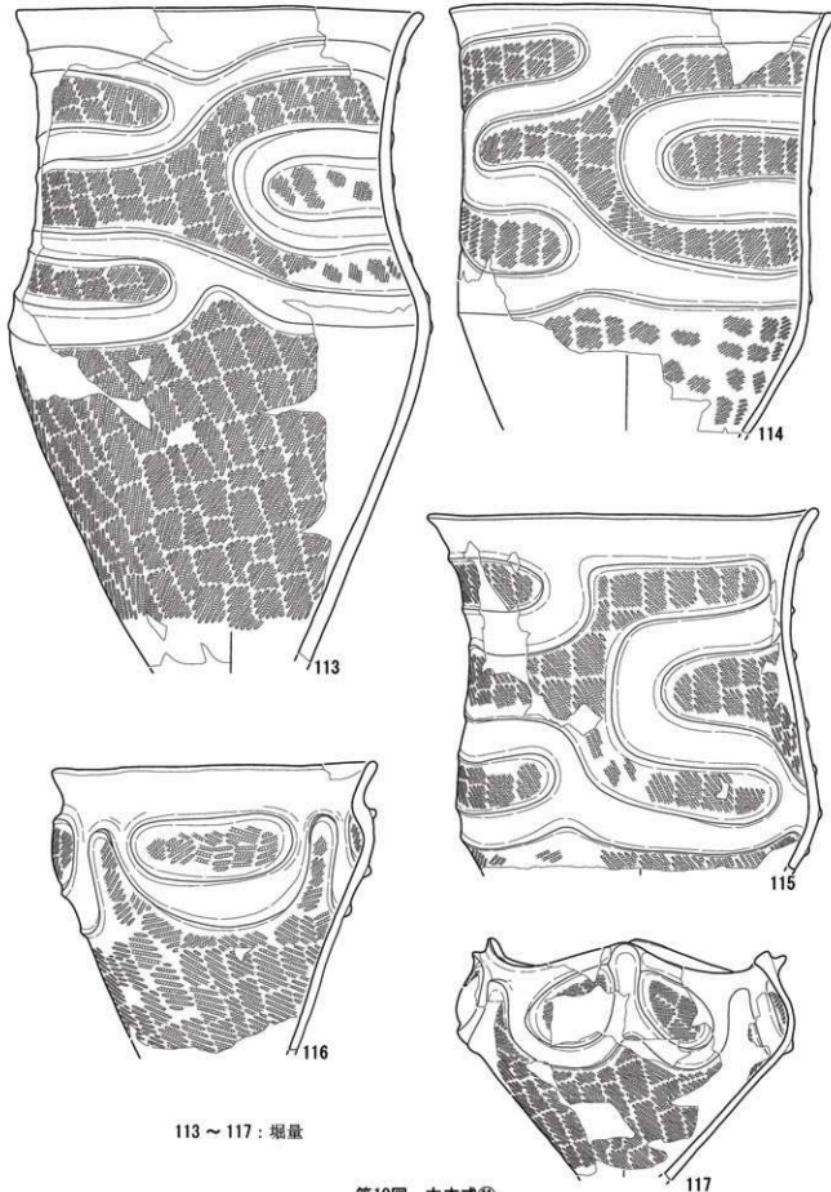
第16図 大木式⑧



第17図 大木式⑨

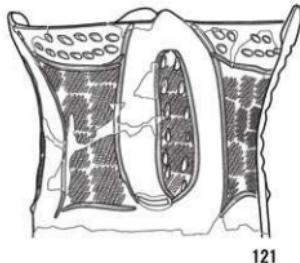
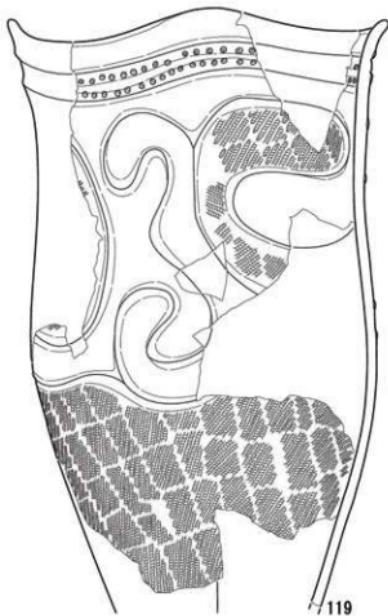
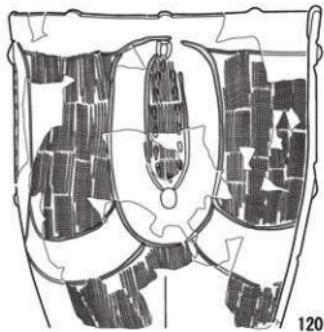


第18図 大木式⑩



113 ~ 117 : 堀量

第19図 大木式⑪

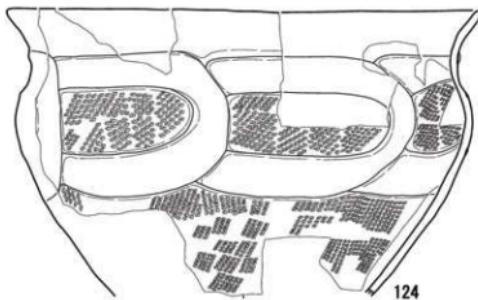
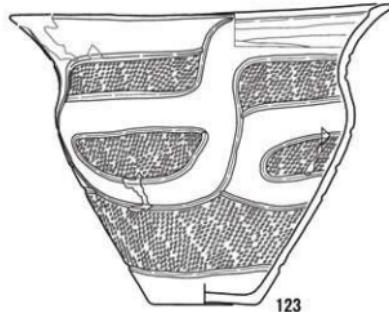
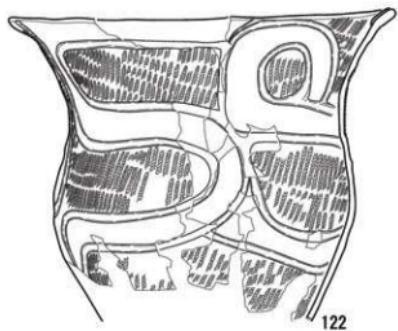


118：湯瀬館

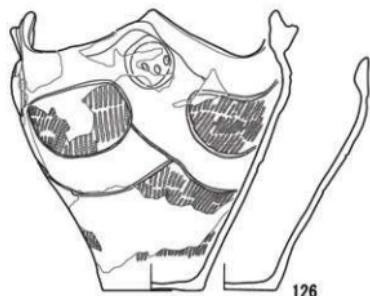
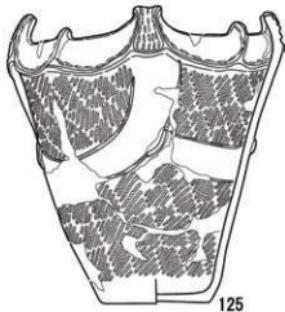
119：堀量

120・121：松木台Ⅲ

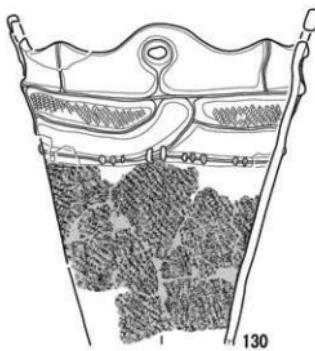
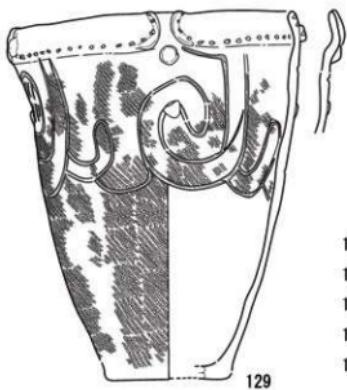
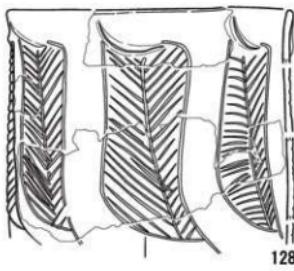
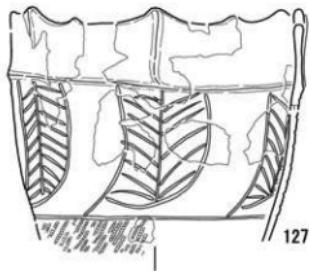
第20図 大木式⑫



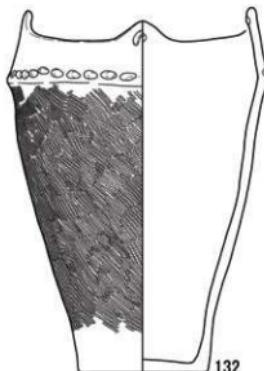
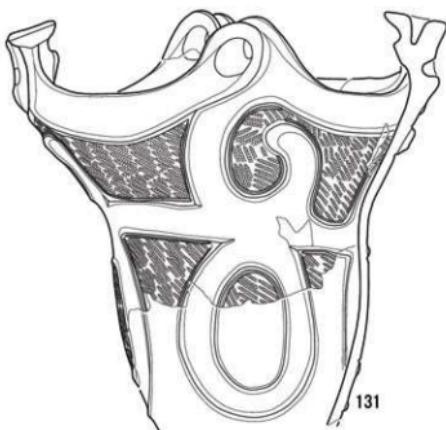
122 : 家ノ前  
123・124 : 堀量  
125 : 高野  
126 : 松木台Ⅲ



第21図 大木式⑬

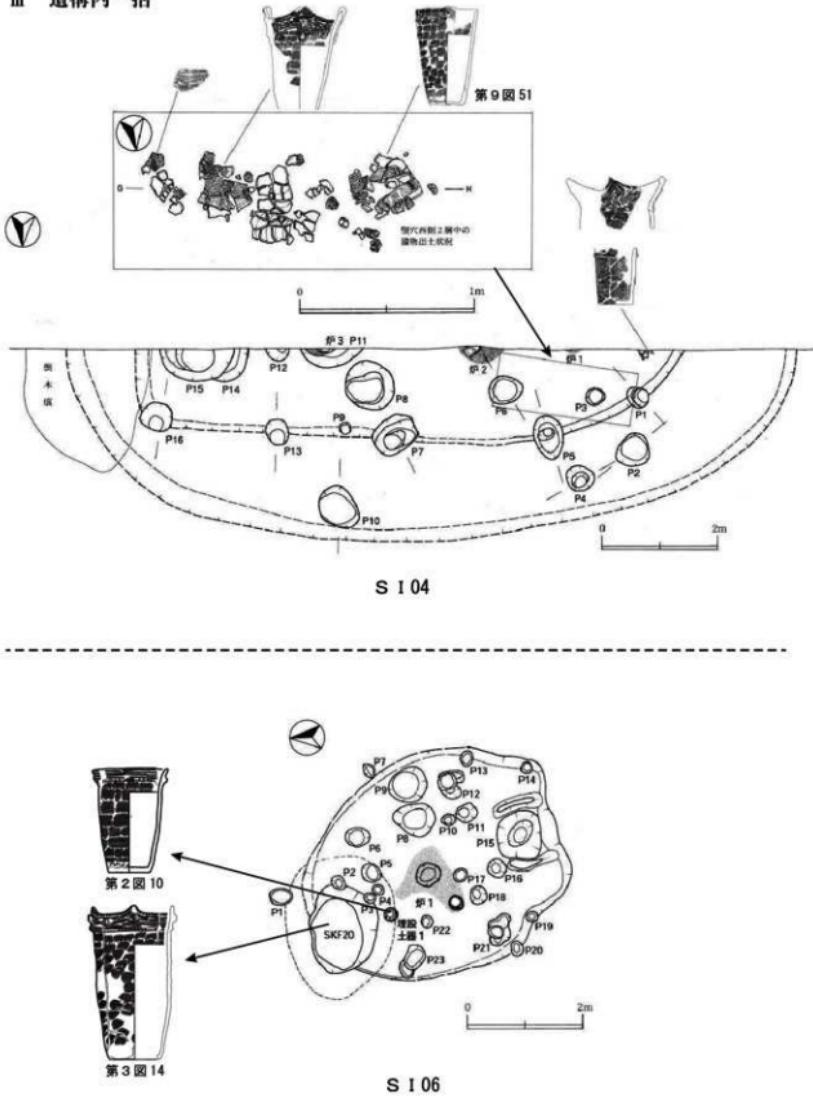


127・128：太田  
129：はりま館  
130：家の下  
131：松木台Ⅲ  
132：上野台

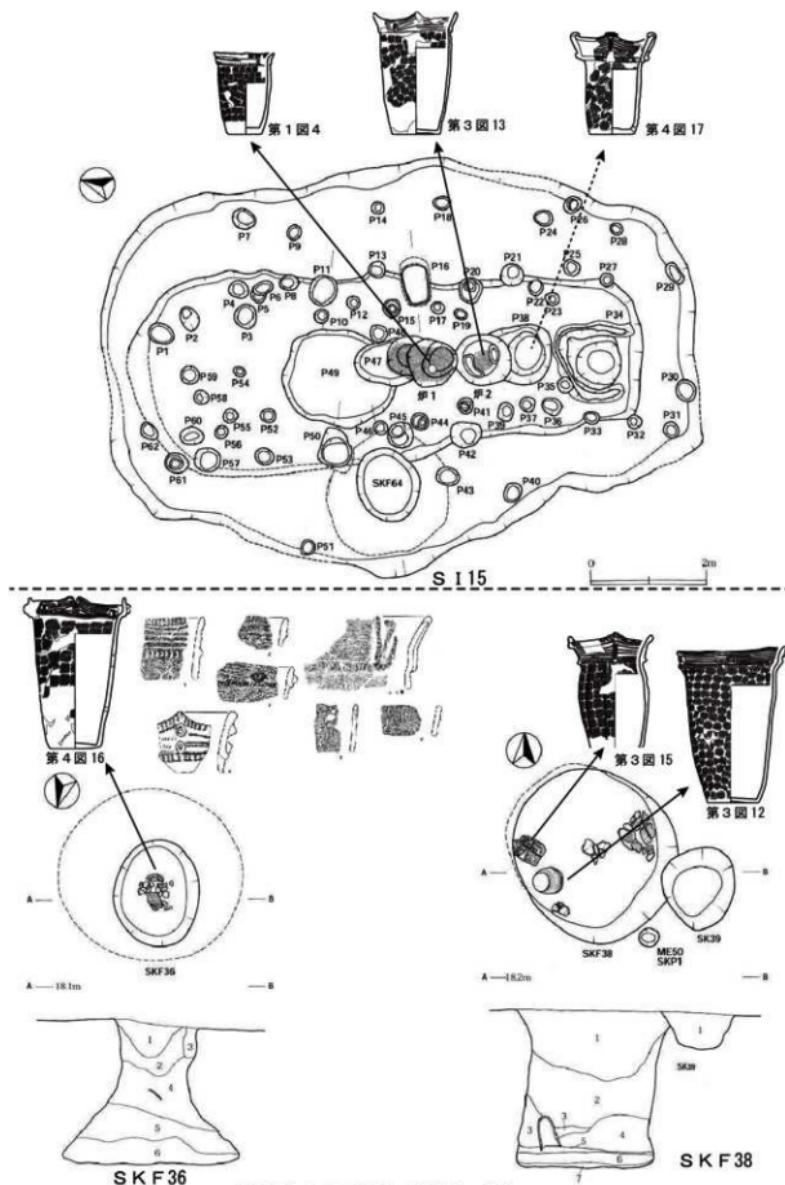


第22図 大木式④

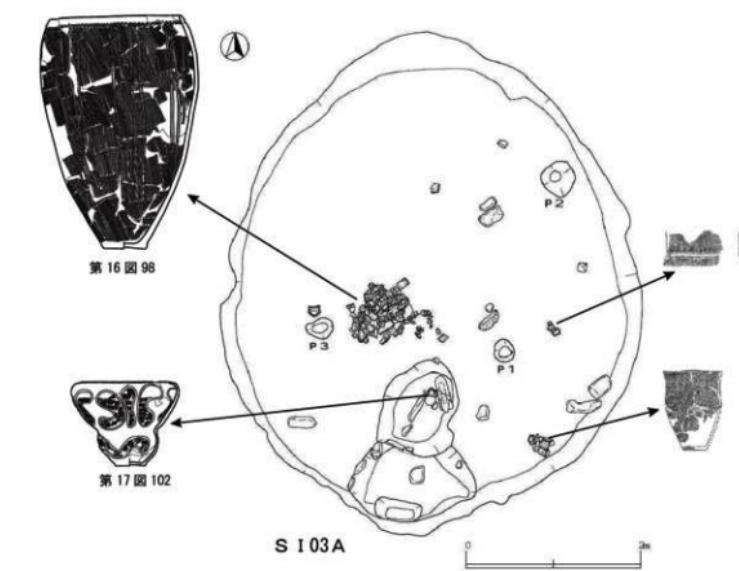
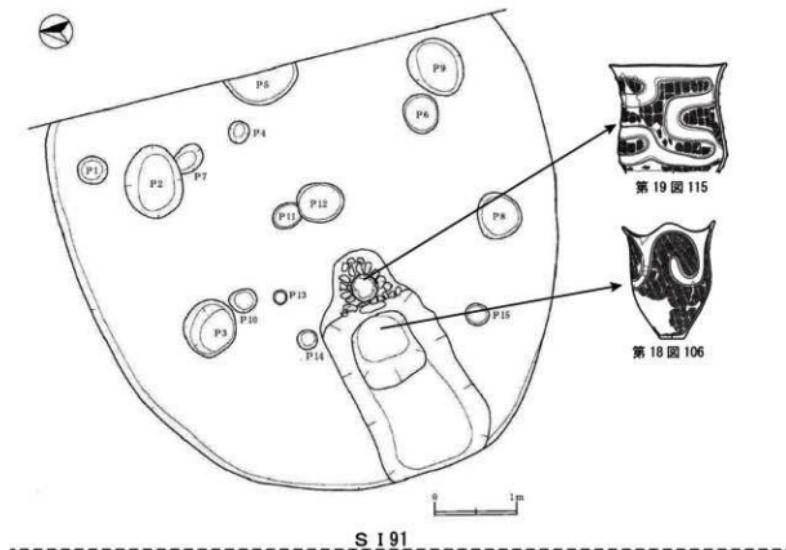
## III 遺構内一括



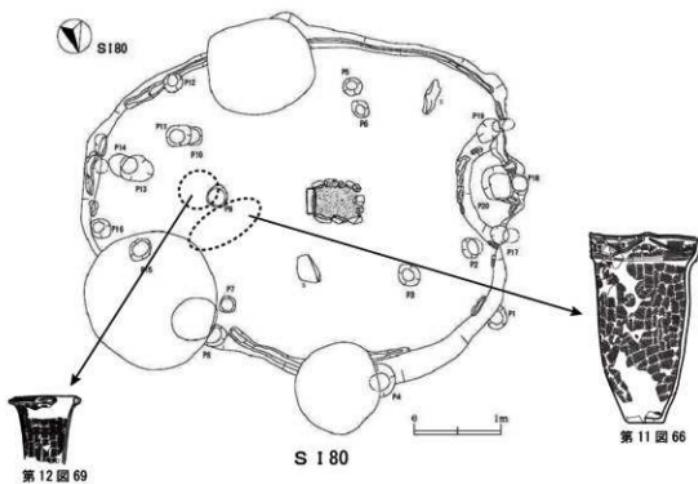
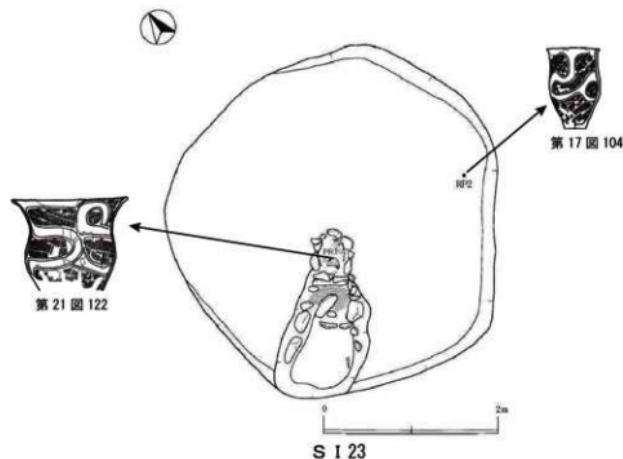
第23図 和田Ⅲ遺跡 遺構内一括①



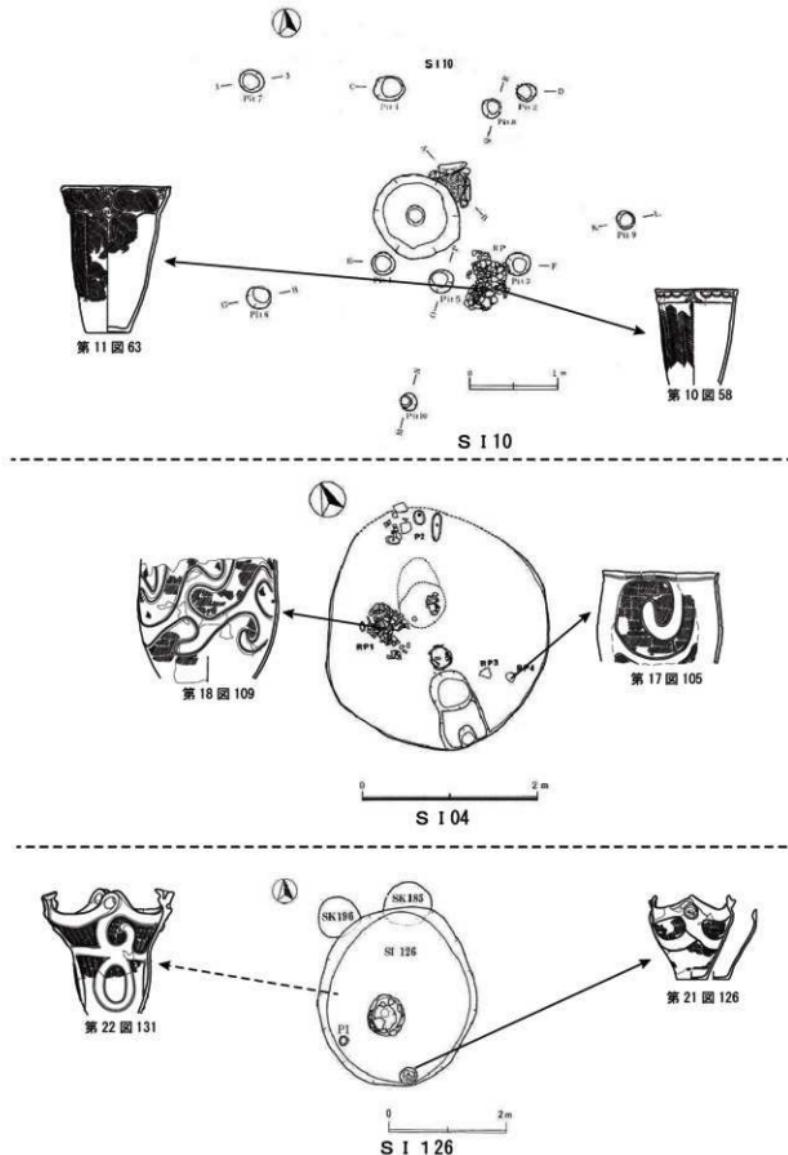
第24図 和田Ⅲ遺跡 遺構内一括②



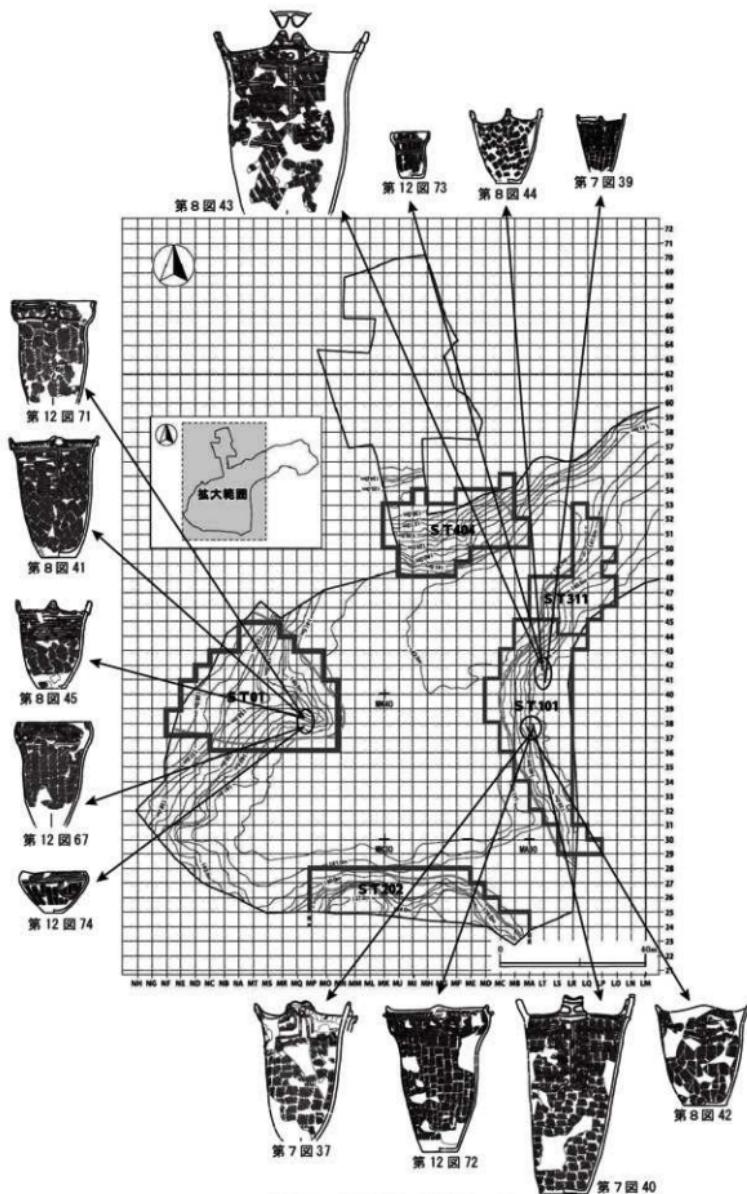
第25図 堀量遺跡（上段）、鳥野上岱遺跡（下段） 遺構内一括



第26図 家ノ前遺跡（上段）、堂ノ沢遺跡（下段） 遺構内一括



第27図 小出IV遺跡（上段）、石坂台面遺跡（中段）、松木台III遺跡（下段） 遺構内一括



第28図 漆下遺跡 遺構内一括

## IV 掘載土器出土遺跡位置図



第29図 掘載土器出土遺跡位置図

## 縄文時代土器集成Ⅱ(中期)

V 土器実測図一覧表

海因リ番号	通跡名	双書番号	報告書 海因リ番号	型式	出土地点	口径	底径	器高	調査年	通跡所在地	所管		
1	和田Ⅲ遺跡	1	99-2	上層a	直横外	28.5	14.3	31.4					
		2	91-2	上層a	直横外	27.0	14.0	42.9					
		3	88-3	上層	直横外	20.7	9.0	31.2					
		4	44-15	上層	S I 15	15.9	8.4	22.2					
		5	88-2	上層a	直横外	18.6	9.3	32.1					
		6	89-2	上層	直横外	28.5	13.4	39.2					
2	350	7	92-3	上層a	直横外	26.9	—	(38.8)					
		8	51-5	上層	S I 16B	21.7	13.6	34.8					
		9	89-1	上層a	直横外	30.2	13.1	44.0	2000	山本郡三種町	埋蔵文化財センター		
		10	41-6	上層a	S I 06	20.4	10.8	28.2					
		11	88-1	上層	直横外	22.8	10.5	29.1					
		12	56-1	上層a	SKF 38	28.8	13.5	40.5					
3	14	13	45-1	上層	S I 15	22.5	11.7	33.2					
		14	41-20	上層a	S I 06	21.6	13.5	41.4					
		15	56-2	上層a	SKF 38	22.2	—	(30.9)					
		16	55-6	上層	SKF 36	25.5	10.8	39.3					
		17	45-5	上層a	S I 15	21.6	12.3	28.8					
		18	306	上層	S I 64	15.2	7.5	18.8	1998	仙北市田沢湖	埋蔵文化財センター		
4	19	19	小袋岱遺跡	285	34-1	上層b	S I 25	23.2	—	(15.5)	1996	北秋田郡上小仁村	
		20	桐内C遺跡	299	33-52	上層b	直横外	21.3	—	(24.9)	1998	北秋田市森吉	
		21	29	深渡遺跡	407	84-1	上層b	直横外	33.0	—	(24.5)	2003	北秋田市森吉
		22	23	津下遺跡	464	185-1	上層b	SK 11	17.0	6.5	17.4	2001	北秋田市森吉
		24	25	高野遺跡	372	25-180	上層b	L T 50	24.9	8.7	26.1	2002	北秋田市教育委員会
		25	26	深渡遺跡	407	86-1	上層b	直横外	31.0	15.0	34.6	2003	北秋田市森吉
5	27	27	28	高野遺跡	372	27-194	上層b	M A 46	27.0	—	(35.7)	2002	北秋田市教育委員会
		28	29	深渡遺跡	407	87-2	上層b	M A 47	37.8	—	(37.3)	仙北市田沢湖	埋蔵文化財センター
		30	31	桐内C遺跡	335	8-2	上層b	直横外	21.5	9.0	22.5	2003	北秋田市森吉
		32	33	深渡遺跡	407	86-3	上層b	直横外	20.0	—	(22.8)	北秋田市教育委員会	北秋田市教育委員会
		34	35	松木台Ⅰ遺跡	231	10-9	上層c	MQ51	29.0	—	(24.8)	1992	山本郡三種町
		36	37	深渡遺跡	286	10-2	上層c	S I 107	28.4	12.2	(46.9)	1997	北秋田市森吉
6	38	38	39	松木台Ⅱ遺跡	326	223-1010	上層c	S I 5065	15.2	5.6	16.4	1997	秋田市河辺
		40	41	津下遺跡	464	414-11	上層c	S T 101	25.5	—	(36.8)	2001	北秋田市森吉
		42	43	中小坂遺跡	177	23-101	壹別沢3期	直横外	34.7	12.1	(58.8)	2002	北秋田市教育委員会
		44	45	壹別沢3期	464	367-4	壹別沢3期	S T 101	13.2	—	(15.4)	2006	北秋田市森吉
		46	47	壹別沢3期	300	26-8	壹別沢3期	S T 101	32.3	12.7	53.8	北秋田市教育委員会	北秋田市教育委員会
		48	49	壹別沢3期	350	104-1	新保・新嶺	直横外	24.5	9.5	32.6	1992	北秋田市森吉
7	50	50	51	片野I遺跡	265	186-68	新保・新嶺	S T 101	24.8	11.9	27.0	1993	秋田市上新城中
		52	53	和田Ⅲ遺跡	350	37-1	大木7a	直横外	42.0	—	(49.2)	1994	埋蔵文化財センター
		54	55	小出IV遺跡	206	26-4	大木7b	直横外	19.5	6.8	20.1	1998	大仙市南外
		55	56	和田Ⅲ遺跡	350	25-3	大木7b	S R 11	20.2	7.2	23.9	1998	埋蔵文化財センター
		56	57	大木7a	直横外	16.5	—	(14.8)	1997	北秋田市森吉	北秋田市教育委員会		
		58	59	新保・新嶺	350	102-1	大木7a	直横外	29.7	15.6	27.3	1992	埋蔵文化財センター
8	60	60	61	新保・新嶺	350	102-5	大木7a	直横外	24.8	12.0	22.7	1993	秋田市上新城中
		62	63	大木7a	直横外	23.0	11.0	17.6	1994	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター		
		64	65	大木7a	直横外	—	7.8	(18.9)	1998	大仙市南外	埋蔵文化財センター		
		66	67	大木7a	直横外	—	—	(14.5)	1998	大仙市南外	埋蔵文化財センター		
		68	69	大木7b	直横外	17.5	8.3	26.4					
		70	71	大木7b	直横外	22.9	—	(14.5)					

備註番号	家臣番号	遺跡名	双書番号	報告書備註番号	型式	出土地点	口径	底径	器高	調査年	遺跡所在地	所管
10	56	高野遺跡	372	25-185	大木7b	M A50	30.6	-	(20.8)	2002	仙北市田尻湖	埋蔵文化財センター
	57	繁沢遺跡	399	23-16	大木7b	S R08	29.1	14.7	40.8	2003	秋田市河辺	埋蔵文化財センター
	58	小山IV遺跡	206	23-2	大木7b	S I 10	22.3	-	(25.6)	1988	大仙市南外	埋蔵文化財センター
	59	高野遺跡	372	6-S 1104	大木7b	S I 104	35.1	-	(25.5)	2002	仙北市田尻湖	埋蔵文化財センター
11	60	松木台Ⅱ遺跡	326	224-1013	大木7b	S I 5075	27.0	6.3	11.0	1997	秋田市河辺	埋蔵文化財センター
	61	深瀬遺跡	407	90-3	大木7b	道耕外	24.0	9.0	15.2	2003	北秋田市森吉	北秋田市教育委員会
	62	深瀬遺跡	407	90-4	大木7b	道耕外	29.5	10.0	16.7	-	-	-
	63	小山IV遺跡	206	23-1	大木7b	S I 10	29.0	11.4	39.5	1988	大仙市南外	埋蔵文化財センター
	64	片野I遺跡	265	185-54	大木7b	道耕外	21.0	10.2	28.5	1992 1993 1994	秋田市上新城中	埋蔵文化財センター
	65	小山IV遺跡	206	26-5	大木7b	道耕外	15.2	-	(16.5)	1988	大仙市南外	埋蔵文化財センター
12	66	堂ノ沢遺跡	449	64-38	大木7b	S I 80	30.0	9.4	51.2	2008	大館市大子内	埋蔵文化財センター
	67	漆下遺跡	464	334-8	大木8a	S T01	19.7	-	(27.8)	2001 2002	北秋田市吉吉	北秋田市教育委員会
	68	船内A遺跡	334	12-9	大木8a	S I 113	13.6	-	(15.1)	1999 2000	北秋田市森吉	北秋田市教育委員会
	69	堂ノ沢遺跡	449	63-37	大木8a	S I 80	16.5	-	(18.3)	2008	大館市大子内	埋蔵文化財センター
	70	宝塚堂遺跡	214	14-123	大木8a	道耕外	32.8	-	(25.5)	1990	横手市十文字町	横手市教育委員会
	71	漆下遺跡	464	338-1	大木8a	S T01	22.9	-	(27.5)	-	-	-
13	72	漆下遺跡	464	391-1	大木8a	S T01	28.0	9.3	39.5	2001	北秋田市森吉	北秋田市教育委員会
	73	漆下遺跡	464	431-1	大木8a	S T01	10.2	5.8	12.6	2002	-	-
	74	漆下遺跡	464	338-3	大木8a	S T01	17.0	4.6	11.4	2006	-	-
	75	八木遺跡	181	22-1	大木8b	R P3	21.1	-	(21.3)	1988	横手市船山町	埋蔵文化財センター
	76	堂ノ沢遺跡	449	57-11	大木8b	S I 30	16.5	8.7	26.7	2008	大館市大子内	埋蔵文化財センター
	77	船野遺跡	166	20-52	大木8b	道耕外	24.4	9.6	38.4	1986	大仙市協賀	大仙市教育委員会
14	78	高野遺跡	372	30-254	大木8b	M A50	21.0	10.3	31.5	2002	仙北市田尻湖	埋蔵文化財センター
	79	八木遺跡	181	14-1	大木8b	S K05	21.7	9.5	34.3	1988	横手市船山町	埋蔵文化財センター
	80	天ノ森遺跡	248	29-92	大木8b	L R45V	33.7	22.8	27.5	1993	鹿角市花輪	鹿角市教育委員会
	81	江原船1遺跡	310	136-2	大木8b	道耕外	11.1	5.1	16.6	1998	横手市大雄	埋蔵文化財センター
	82	八木遺跡	181	22-2	大木8b	L H154	13.2	-	(10.8)	1988	横手市船山町	埋蔵文化財センター
	83	岩瀬遺跡	263	245-D102	大木8b	S N12	26.7	-	(24.4)	1991 1993	横手市山内	埋蔵文化財センター
15	84	江原船1遺跡	310	74-1	大木8b	S I 1510	20.4	-	(19.2)	1998	横手市大雄	埋蔵文化財センター
	85	松木台Ⅱ遺跡	326	104-299	大木8b	S I 79	27.7	-	(23.6)	1997	秋田市河辺	埋蔵文化財センター
	86	岩瀬遺跡	263	247-D111	大木8b	S X P42	35.0	16.0	29.5	1993	横手市山内	埋蔵文化財センター
	87	上野台遺跡	180	9-6	大木8b	S I 37	19.8	-	(15.0)	1987	大仙市鶴首	埋蔵文化財センター
	88	堀屋遺跡	367	81-325	大木8b	S K330	16.5	-	(19.2)	2001	湯沢市堀屋	埋蔵文化財センター
	89	上熊ノ沢遺跡	213	42-463	大木9	S I 18	31.2	-	(36.8)	1989	にかほ市牟陽	埋蔵文化財センター
16	90	上熊ノ沢遺跡	213	24-230	大木9	S I 04	33.8	10.0	(41.4)	-	-	-
	91	松木台Ⅱ遺跡	326	99-192	大木9	S I 67	30.4	-	(26.9)	1997	秋田市河辺	埋蔵文化財センター
	92	森合家ノ前A遺跡	453	35-2	大木9	S I 5073	29.8	8.9	41.5	2007	北秋田市森吉	北秋田市教育委員会
	93	松木台Ⅱ遺跡	326	123-466	大木9	S I 152	36.7	-	(36.2)	-	-	-
	94	松木台Ⅱ遺跡	326	222-981	大木9	S I 5054	21.6	7.4	25.2	1997	秋田市河辺	埋蔵文化財センター
	95	森古家ノ前A遺跡	453	36-2	大木9	S I 5080	34.6	-	(27.7)	2007	北秋田市森吉	北秋田市教育委員会
17	96	松木台Ⅱ遺跡	326	111-391	大木9	S I 96	21.0	-	(13.8)	-	-	-
	97	松木台Ⅱ遺跡	326	91-44	大木9	S I 24	20.0	-	(17.2)	1997	秋田市河辺	埋蔵文化財センター
	98	鳥野上岱遺跡	406	12-1	大木9	S I 03A	35.6	11.2	65.5	2004	能代市二井井	埋蔵文化財センター
	99	上熊ノ沢遺跡	213	39-461	大木10	S I 15	30.0	7.8	31.6	1989	にかほ市牟陽	埋蔵文化財センター
	100	興筋岱遺跡	305	21-35	大木10	S I 03	19.9	-	(15.5)	1998	秋田市雄和	埋蔵文化財センター
	101	松木台Ⅱ遺跡	326	122-455	大木10	S I 140	25.5	9.6	25.5	1997	秋田市河辺	埋蔵文化財センター
18	102	鳥野上岱遺跡	406	10-1	大木10	S I 03A	(23.9)	8.2	22.6	2004	能代市二井井	埋蔵文化財センター
	103	太田遺跡	207	59-196	大木10	S I 70	11.6	-	(11.6)	1988	大曲市小友安	埋蔵文化財センター
	104	家ノ前遺跡	418	31-2	大木10	S I 23	(14.3)	5.6	(22.0)	2005	由利本荘市米坂	埋蔵文化財センター
	105	石炭炉遺跡	150	10-4	大木10	S I 04	31.5	-	(25.2)	1985	秋田市河辺	秋田市教育委員会
	106	黒屋遺跡	367	30-99	大木9	S I 91	25.0	6.2	31.2	2001	潟沢市隨1	埋蔵文化財センター
	107	松木台Ⅱ遺跡	326	90-33	大木10	S I 16	27.0	-	(25.0)	1997	秋田市河辺	埋蔵文化財センター
19	108	上野遺跡	222	16-3	大木10	S I 10	16.6	8.0	23.8	1992	大館市池内	大館市教育委員会
	109	右坂内溝遺跡	150	9-3	大木10	S I 04	-	-	(33.0)	1985	秋田市河辺	秋田市教育委員会
	110	上野遺跡	222	16-2	大木10	S I 01	17.3	7.2	27.8	1992	大館市池内	大館市教育委員会

海防図書番号	通跡名	双書番号	報告書 海防図書番号	型 式	出土地点	口 径	底 径	器 高	調査年	通跡所在地	所 貯	
18	111			16-27	大木10	S I 29	20.6	6.2	14.1	湯沢市開口	埋蔵文化財センター	
	112			68-290	大木10	S K 27	22.0	8.7	17.2			
	113			80-310	大木10	S K 256	32.5	—	(52.8)			
	114	聖屋遺跡	367	67-288	大木10	S K 25	30.8	—	(34.2)			
	115			29-81	大木10	S I 91	30.9	—	(29.0)			
	116			58-251	大木10	S I 251	25.9	—	(23.2)			
	117			44-150	大木10	S I 117	22.4	—	(20.5)			
20	118	湯瀬前跡	462	8-2	大木10	遺構外	26.7	8.8	54.7	2009	鹿角市八幡平	埋蔵文化財センター
	119		367	79-306	大木10	S K 205	30.3	—	(47.9)	2001	湯沢市開口	埋蔵文化財センター
	120			98-182	大木10	S I 53	26.3	—	(25.8)	1997	秋田市河辺	埋蔵文化財センター
	121			112-399	大木10	S I 99	24.0	—	(18.4)			
21	122	家ノ前遺跡	418	31-1	大木10	S I 23	31.4	—	(25.5)	2005	由利本荘市市坂	埋蔵文化財センター
	123		48-195	大木10	S I 339	30.3	8.3	23.6	—	2001	湯沢市開口	埋蔵文化財センター
	124	堀畠遺跡	367	27-60	大木10	S I 79	38.3	—	(23.3)			
22	125	高野遺跡	372	31-275	大木10	L T 50	19.5	8.8	24.1	2002	仙北市田沢湖	埋蔵文化財センター
	126	松木台遺跡	326	120-450	大木10	S I 126	20.1	8.1	22.5	1997	秋田市河辺	埋蔵文化財センター
	127	太田遺跡	207	27-70	大木10	S B 40	23.2	—	(20.0)	1988	大曲市内小友	埋蔵文化財センター
23	128		27-71	大木10	S B 40	23.0	—	(20.0)	—	1990	能代市小坂町	小坂町教育委員会
	129	はりま館遺跡	192	390-53	大木10	S I 63	22.8	9.6	29.8	1988	三種町三種町	三種町教育委員会
	130	家の下遺跡	256	76-26	大木10	S K F 61 A	24.0	—	(26.0)	1994	山本郡三種町	三種町教育委員会
24	131	松木台遺跡	326	121-452	大木10	S I 126	32.8	—	(34.5)	1997	秋田市河辺	埋蔵文化財センター
	132	上野台遺跡	180	15-37	大木10	S K 49	18.3	10.2	28.5	1987	大仙市御所	埋蔵文化財センター

## 発掘調査報告書 双書番号・書名対応表

双書番号	書 名	刊行年
150	石城台跡・山・道・溝・壁・区・松木の置跡 - 東北橋断白動車道秋田山崩発掘調査報告書Ⅰ-	1986
166	上ノ山ノ遺跡・細野遺跡・上ノ山ノ遺跡 - 東北橋断白動車道秋田山崩発掘調査報告書Ⅱ-	1988
177	中小坂遺跡発掘調査報告書 - 高速交通開拓道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査 -	1988
180	上野台遺跡・寺伏遺跡・下山遺跡 - 東北橋断白動車道秋田山崩発掘調査報告書Ⅲ-	1989
181	八木道路発掘調査報告書 - 公害防除特別地改良事業八木本地に係る埋蔵文化財発掘調査 -	1989
192	はりま館跡発掘調査報告書 - 東北自動車道小坂インターチェンジ建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査 -	1990
209	小出I・II・III・IV遺跡 - 東北橋断白動車道秋田山崩発掘調査報告書I-	1991
207	太山遺跡 - 東北橋断白動車道秋田山崩発掘調査報告書 -	1991
213	上熊ノ沢遺跡 - 大蛇田跡公園施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ-	1991
214	宝塚堂遺跡発掘調査報告書 - 公害防除特別地改修事業・地盤工に係る埋蔵文化財発掘調査 -	1991
222	上野遺跡 - 国道10号延長道路改修事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ-	1992
231	曾呂尻ノ山遺跡・曾呂尻沢ノ遺跡 - 一般国道4号等延能代道路建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書 -	1993
248	戸ノ森遺跡 - 熊山山地・花輪駒ヶ根遺跡群調査報告書Ⅱ-	1994
256	家の下遺跡(1) - 一般国道延長道路整備事業(横丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-	1995
263	岩畠遺跡 - 東北橋断白動車道秋田山崩発掘調査報告書Ⅳ-	1996
265	片野I・遺跡 - 片野I・外環状道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書I -	1996
285	小岱岱遺跡 - 一般国道285号延長道路改修事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	1999
286	深瀬遺跡 - 音ヶ谷ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書I -	1999
299	桐内C遺跡 - 音ヶ谷山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書I -	2000
300	鳴ヶ岱I遺跡 - 音ヶ谷山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書IV -	2000
305	奥柄岱遺跡 - 桐山空港タクシ道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	2000
306	画面遺跡(第2次) - 一般国道10号延長道路改修事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	2000
310	江原I・2遺跡 - 桜井延長道路整備事業(桜井地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	2001
326	松木台遺跡 - 日本海の岸壁北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	2001
334	桐内A遺跡 - 音ヶ谷山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	2002
335	桐内沢遺跡・日豊A遺跡 - 音ヶ谷山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	2002
350	山田III遺跡 - 鹿児島県鹿児島市企水町西門地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	2003
367	聖屋遺跡 - 一般国道13号延長道路構造道路建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書I -	2004
372	高野遺跡 - 瑞羽村堀留整備事業(黒酢地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	2004
399	鶴沢遺跡 - 一般国道17号延長道路構造道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	2005
406	鳥野上・岱遺跡 - 一般国道7号等延能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XV -	2006
407	深瀬遺跡 - 音ヶ谷山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XVI -	2006
418	家のノ遺跡 - 国道10号延長道路改修事業(弓削道路)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	2007
449	堂ノ沢遺跡 - 一般国道7号鹿児島自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書I -	2010
453	森吉ノ家ノ前A遺跡(第3次) - 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXII -	2010
462	湯瀬駅跡(第2次) - 国道282号交通安全施設等整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -	2010
464	塩下遺跡 - 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXI -	2011



和田Ⅲ遺跡

1-4  
円筒上層a式。外傾する平縁の深鉢。口縁・体部の接合部を隆帯状の段とし、上に1cmほどの間隔で縦の縹文原体側面圧痕を、口縁外面にも横回転のLR縹文を地紋として圧痕二条を施す。体部の縹文は口縁と同様、横回転のLR縹文。高さ22.2cm。



和田Ⅲ遺跡

2-8  
円筒上層a式。外傾する平縁の深鉢。口縁・体部の接合部に低い縫帶を貼り付け、縹文原体末端の刺突列を施す。口縁上端にも原体側面圧痕列、その下に格子体側面圧痕三~四条を施し、一对の貼瘤を施す。体最上部に綾格文、以下横回転のLR縹文。高さ34.8cm。



和田Ⅲ遺跡

3-13  
円筒上層a式。やや外反する波状口縁の深鉢。口縁・体部の接合部を隆帯状の段とする。格条体側面圧痕を波状の口縁に沿わせ四条施し、波頂部の間にボタン状貼瘤を施す。貼瘤上にも格条体側面圧痕を施す。体部は横回転のLR縹文。高さ33.2cm。



和田Ⅲ遺跡

3-14  
円筒上層a式。直立に近く四つの山形突起がある波状口縁の深鉢。波頂部下とその中间にボタン状貼瘤がある。口縁最上部と貼瘤上、および体部境界の低い貼付隆带上は縦の列で、その間に横に五一八条の縹文原体側面圧痕を施す。体部は横回転のLR縹文。高さ41.4cm。



3-15 和田Ⅲ遺跡

円筒上層 a 式。外反・外傾する波状口縁の深鉢。体部境界に低い貼付隆帯、山形の波頂部下にも縦の隆帯が貼付される。口縁上端、体部境界隆帯上では縦に、その間は横の隆帯とも含め横に五~六条の絡条体側面圧痕を施す。やや丸みを帯びた体部は綾絞文を伴う縱回転のLR繩文が施される。現存高30.9cm。



4-16 和田Ⅲ遺跡

円筒上層 a 式。頸部でクランク状に屈曲する波状口縁の深鉢。波頂部は二叉に分かれその下に小さな橋状突起。波頂部間に横長の貼瘤が施される。口縁上端と頸屈曲部には縦に、その間には横に突起、瘤上を含め五~六条の絡条体側面圧痕を施す。体部は横回転のLR繩文。高さ39.3cm。



4-17 和田Ⅲ遺跡

円筒上層 a 式。外傾する波状口縁の深鉢。口縁・体部の接合部を隆帯状の段とし、波頂部から縦の粘土紐帶が貼付される。口縁上端と体部境界の隆帯上では縦に、その間は横に七条、波頂部下の縦の隆帯上では縦横の方向で原体側面圧痕が施される。体部は横回転のLR繩文。高さ28.8cm。



4-18 湯前遺跡

円筒上層 a 式。頸部で大きく屈曲し外傾する波状口縁の深鉢。口縁・口縁部には細い竹管状工具の刺空列、口縁部には斜位の絡条体圧痕が数条単位で交互に施され、頸屈曲部には粘土紐帶が貼付されて剣目が施される。丸みを帯びた体部には結束第2種のL R・R L繩文が横回転で施文される。田沢湖畔での出土であり、上層 a 式としても地方化した特徴をもつ土器である。高さ18.8cm。



桐内C遺跡

円筒上層b式。外傾する花弁状四單位波状口縁の深鉢。波頂部突起は二又に分かれ、口縁上端とともに粘土紐貼付で肥厚する。頭部降帶との間を織る降帶でつなぎ、区画内にも円形文を要にしたV字降帶を貼付する。突起および降帶上には列ないし螺旋状、降帶間にはC字形の罫文原体側面圧痕列を施し、突起下には三箇所の首孔を施す。筒形の体部にはLRおよびRLR複節罫文が輪絡文を伴って横回転で施される。現存高24.9cm。

4-20



深渡遺跡

円筒上層b式。外傾する花弁状四單位波状口縁の深鉢。波頂部突起は二又に分かれ、口縁上端とともに粘土紐貼付で肥厚する。波頂部下は降帶貼付文で飾り体部境界も二条の粘土紐降帶を貼り付ける。口縁上端や粘土紐降帶上は列として、その間ににはC字形の罫文原体側面圧痕を施す。体部は結束第1種のLR・RLR罫文が横回転で施される。現存高24.5cm。

4-21



深渡遺跡

円筒上層b式。外傾する平縁の深鉢。口縁上部に粘土紐を鋸歯状に貼り付け、体部境界にも二条の粘土紐降帶を貼り付ける。その間に背中合わせのDおよび逆D字形の粘土紐を横に連絡する降帶とともに貼付する。降帶上には列状に、その間ににはC字形の罫文原体側面圧痕列を施す。体部は横回転のLR罫文。現存高13.3cm。

5-22



高野遺跡

円筒上層b式。外傾する平縁の深鉢。口縁上端四箇所に下方に向く山形突起を設け、細い弧状の粘土紐貼付とそれに沿う弧状の罫文原体側面圧痕を重ねて施す。突起間は、上面に原体側面圧痕列を施した粘土紐を鋸歯状に貼付する。口縁外面は突起と同じ手法で横線・渦巻きなどで飾るが、突起下では織の貼付・圧痕が体部まで伸び、要所に劍先状のモチーフを作る。丸みを帯びた体部には織回転のLR罫文。田沢湖から南の玉川流域の土器であり、本来円筒上層式にはない体部への文様展開など、大木7b式との影響関係で変容した土器である。高さ26.1cm。

5-24



5-25 深渡遺跡

円筒上層b式。外傾する平縁の深鉢。口縁上部は鋸歯状の、体部境界には二条の、その間には乱れた格子状の粘土紐を貼付する。いずれの粘土紐上にも原体側面圧痕列を、その間ににはC字状の原体圧痕列を施す。やや丸みを帯びた体部には横回転の結束第1種RL・LR繩文を施すが、原体開端を結束した細紐圧痕が綾織文として現れる。高さ34.6cm。



高野遺跡

5-26 円筒上層b式。やや膨らみ内湾する小波状口縁深鉢。小波状口縁は5-22～25、6-28～30の口縁上端の鋸歯状貼付文と関わる。波頂部のうち四箇所が他よりやや高く、その位置でY字形粘土紐が貼付され口縁部文様が四単位に区画される。区画内には対向する弧の張状やV字形隆帶が繩文原体側面圧痕を伴って貼り付けられ、その間にも平行、連弧、V字形の側面圧痕が施される。やや丸みをもった体部も横回転のLR繩文を地紋とし蛇行する隆帶と原体側面圧痕が口縁部文様帶に接して施される。沈線文を欠き円筒上層式としてとらえるが、キャリバー形に近い口縁形状や体部文様の点で大木7b式の影響を相当に受けている。現存高35.7cm。



5-27 深渡遺跡

円筒上層b式。外傾する小波状口縁の深鉢。5-26同様口縁の小波状の形状は円筒上層b式平縁深鉢の口縁上端の鋸歯状貼付文と関わるものだろう。口縁から体部まで縱回転のRLR複節繩文を地紋とし、下限を隆帶二条で区切った口縁部文様帶には繩文原体側面圧痕を伴った粘土紐を複縫、波状に貼り付ける。側面圧痕は粘土紐とは別に連弧やC字、螺旋などのモチーフで粘土紐の間に充填される。体部にも波形に蛇行する二条の隆帶が貼り付けられ、その間に側面圧痕が螺旋や剣先状に施される。5-56同様に大木7b式の影響を相当に受ける。現存高37.3cm。



深渡遺跡

6-28 円筒上層b式。外傾する平縁の深鉢。口縁上部には山形と複列二本の粘土紐を交互に貼り付ける。二条隆帶で下限を画した口縁部文様帶にはY字、X字の粘土紐隆帶を交互に配置し、間に角棒状工具の先端の刺突列(角押文)を施す。粘土紐上には繩文原体側面圧痕が施される。体部は横回転の結束第1種のRL繩文。原体開端を縛った細紐の圧痕が綾格状に現れる。高さ22.5cm。



深渡遺跡

6-29 内筒上層b式。外反する平縁の深鉢。口縁上部は鋸歯状に、下限を二条隆帶で限った中にはY字や弧状の隆帶を貼り付けて文様とし、口縁上部、文様帶下限を含め粘土紐上には繩文原体側面圧痕を施す。隆帶の間にはC字状の刺突列を加える。丸みのある体部は横回転の結果第1種R L・L R繩文。原体開端を飾った細紐圧痕が現れる。現存高22.8cm。



深渡遺跡

6-31 内筒上層b式。外傾する花弁状四單位波状口縁の深鉢。頸部に回した二条隆帶を下限として口縁部突起にかけて亂れたY字、鋸歯など粘土紐貼付の文様を施す。口縁上端、頸部を含め隆帶上には繩文原体側面圧痕列を施す。直線的に降りる体部には左上一右下斜め回転の無節L繩文。高さ22.2cm。



深渡遺跡

6-32 内筒上層b式。外傾する花弁状四單位波状口縁の深鉢。横回転の無節L繩文を器面全面に施す。同じ原体の側面圧痕を口縁部文様帶に施す。圧痕は波状口縁突起下では対の馬蹄形に浅く、それ以外ではループ状に曲げた端での刺突列を深く、頸部の文様帶下限では横線二条と繩の短い圧痕で梯子状に施す。体部には繩の綴絡文が施される。粘土紐隆帶の装飾を欠くが、上層式の範囲でとらえられる。現存高17.0cm。



深渡遺跡

6-33 内筒上層b式。外傾する花弁状四單位波状口縁の深鉢。波頂部突起には円孔があく。口縁上端に鋸歯状、頸部の文様帶下限に二条、その間に波頂部突起を挟んで対称に弧状、斜位に粘土紐隆帶を貼り付け、隆帶間には角押文の刺突列を施す。刺突列の間に三條単位の細い撲糸文があり、同じ原体の側面圧痕が隆帶上に施される。体部は横回転の結果第1種R L・L R繩文。現存高25.5cm。



**萱刈沢 I 遺跡** 6-34  
円筒上層 c 式。外傾する花弁状四單位波状口縁の深鉢。口縁部文様帶が体部上半まで下り広がる。波状口縁の花弁状突起上端には横一条と V 字形に隆帶を、その下に對の粘土瘤を貼り付ける。突起間の口縁波底部分では背中合わせの C 字隆起を作り出す。体部上半の文様帶下限は二条、口縁の間には突起を挟んで対称形に弧状、斜め、縱横の粘土瘤隆帶を貼り付け、その間に角押文の刺突列を加える。隆帶上には細かな刻目が施される。体部は横回転の L.R 繩文。現存高24.8cm。



**深渡遺跡** 6-35  
円筒上層 c 式。口縁部を欠くが外傾する花弁状四單位の波状口縁となる深鉢である。体部上半まで下りた文様帶に、粘土瘤隆帶の貼付とその間を埋める角押文の刺突列が施される。文様はおそらく波状口縁突起部に対応する縱二条の隆帶を挟んで対称形の構図となる。隆帶上には細かな刻目が施される。体部は横回転の L.R 繩文。原体を轉る繩の帶が压痕として現れる。現存高46.9cm。



**松木台Ⅲ 遺跡** 7-36  
円筒上層 c 式。口縁部に四箇所の山形突起をもつ波状口縁の深鉢。全面に縱回転の R.L 繩文を地紋として施す。口縁上端、山形突起間にには地紋に用いられたと同じ繩文原本の圧痕列が施され、突起下と文様帶下限の同じ位置にボタン状の粘土瘤が貼り付けられる。体部下半まで下りた文様帶には、ボタン状瘤の間に縱に貼り付けられた連續甲庄のある隆帶を挟んで、対称形に上下二段にわたり二条ずつの弧状隆帶が向かい合わせで貼り付けられる。隆帶上への施はない。現存高16.4cm。



**漆下遺跡** 7-39  
萱刈沢 b 3 類。口縁四箇所に山形突起をもつ深鉢。口縁から底部まで直線的に下りる。口縁上端に刻目が施され、器面全面に施された縱回転のし R 繩文を地紋とし、沈線による文様が描かれる。文様は突起下に縱線を、突起下と文様帶下限の同じ位置で粗雑な円ない螺旋を描き、縱線間を七~八条の平行線で結ぶもの。現存高15.4cm。



中小坂遺跡

円筒上層c式。外傾する花弁状四單位の波状口縁深鉢。花弁状突起を含め口縁上端に粘土帯が貼り付けられ、その外側に刻目が施される。突起下には環状粘土瘤が貼り付けられ、そこから垂下する上面に連続押圧を施した隆帶を挟んで対称形の構図で文様が施される。文様は横回転のR L罫文を地紋とし二条隆帶が三段にわたり貼り付けられるが、隆帶間を別に隆帶で斜めに連絡したり、弧線で結んだりする。隆帶上の施文はない。推定高58.8cm。

7-38



漆下遺跡

質刈沢b 3類。口縁から底部まで直線的なプロボーションの深鉢。口縁に四単位の花弁状突起が付き、突起下および突起間に罫文原体側面圧痕が施される。花弁状突起部分にわずかに細い隆帶が貼り付けられるほかは、縦回転のR L罫文を地紋として描く沈線で文様構成され、突起下に垂下させた三条の沈線が挟んで対称形に、三条単位の弧状沈線が三段にわたって描かれる。また、縦の蛇行沈線や下端で渦巻く沈線が加えられる。高さ53.8cm。

7-40



漆下遺跡

質刈沢b 3類。口縁四箇所に突起をもつ平縁の深鉢。突起部分では円形に粘土紐を貼り付け、突起間の口縁上端には斜めの刻目を施す。口縁直下の文様帶では左上一右下で斜め回転したR L罫文を地紋とし、突起下に垂下する二条沈線を挟んで対称的に二条ずつの向かい合わせ弧線が三段にわたって描かれる。高さ32.6cm。

8-41



漆下遺跡

質刈沢b 3類。外傾する口縁四箇所に二叉に分かれた突起をもつ深鉢。突起上にわずかに細い隆線が、突起下には刻目ある二条隆帶が垂下して貼り付けられるが、他は基本的に沈線による文様構成がされる。突起間の口縁上端には罫文原体の斜めの押圧がされ、突起下には円孔があけられる。左上一右下で回転したR L罫文を地紋としての沈線文は、上下を二~三条の平行沈線で塗したなかに反転して描く対向する二条沈線のモチーフを、突起下降帶を挟んで対称形に描く。現存高49.2cm。

8-43



8-44

## 漆下遺跡

萱刈沢b 3類。四単位の山形突起のある深鉢。突起上には細い粘土紐が環状に貼り付けられるが、それ以外の目立った装飾はない。突起間の口縁上端には体部に施しているのと同じ繩文原体を連続して押圧する。体部は壊ないし左上→右下方に向に回転したR.L繩文。高さ20.1cm。



8-45

## 漆下遺跡

萱刈沢b 3類。四単位の山形突起のある深鉢。突起外面には五条の細い粘土紐を弧状に、内面には環状に粘土紐を貼り付ける。突起間の口縁上端には体部に施しているのと同じ繩文原体を斜めに連続して押圧する。器面全面に横回転のL.R繩文を施した上で体部半ば以上に八~十条の平行沈線を描く。高さ23.9cm。



8-46

## 姫ヶ岱D遺跡

萱刈沢b 3類。三単位の山形の波状口縁深鉢。口縁上端には薄い鏝状工具で刻目が施される。口縁下には横回転のL.R繩文を地紋として、三条単位の沈線が口縁に沿って波状に描かれる。波頂部下ではこの沈線に二条沈線で上向きの弧線が加えられる。現存高14.8cm。



和田III遺跡

9-47

新保・新崎式。口縁が大きく屈曲して皿状に開き、やや外反する筒状の体部の深鉢。底部はいくぶん外に張り出す。竹管状工具ないし籠状工具を用いて縦横の区画および溝引き、そしてそれらの上に刻目や交互対向する抉り込みを施して文様を構成する。また、部分的に区画内に細密な沈線を縦横に施文する。高さ17.6cm。



和田III遺跡

9-49

大木7 a式。外傾して開く波状口縁、丸い体部上半、やや外反する筒状を呈する体部下半。いわゆる「金魚鉢」形の深鉢である。口縁波頂部の突起内面には粘土紐を螺旋に貼り付ける。口縁部外面には横回転のL R繩文、体部には三段単位の綾格文が施される。高さ27.3cm。



和田III遺跡

9-50

大木7 a式。9-49同様の「金魚鉢」形の深鉢である。口縁下には三角形に深く抉り込んだ橋状突列が連続して巡り、波頂部の下四箇所には橋状突起が付けられる。口縁部の文様はこの橋状突起を取り組んで、間に刻目を施した二条沈線で曲線、螺旋を描く。体部との境には低い縦帯が貼り付けられ、上面に刻みが加えられる。体部は横回転のR無節繩文を施した上で二段単位の綾格文が纏めに施される。高さ22.7cm。



和田III遺跡

9-51

大木7 a式。直線的に立ち上がる筒形の平縁深鉢。器形は円筒形であるが、口縁部の装飾の技法をもって大木7 a式に求めでとらえる。口縁一箇所に低い突起が付く。横回転のL R繩文を地紋とした口縁部文様帶には、上限を二条、下限を二ないし三条の沈線で画した中に半截竹管状工具で鋸歯状の文様を描く。口縁部下端は体部よりもやや厚く粘土を貼り付け、段を設ける。体部は口縁部同様の繩文を全面に施す。高さ33.4cm。



和田Ⅲ遺跡

大木7a式。わずかな脇みをもつ外傾する平縁の深鉢。口縁上端一箇所にごく低い突起が付く。上下限を二条の沈線で画した口縁部文様帶には細い沈線を密に施し、その上に粘土紐を貼り付ける。粘土紐上には棒状工具で刻目が加えられる。体部は纏回転のR.L.縄文。現存高16.9cm。

9-52



和田Ⅲ遺跡

大木7a式。膨らみをもつキャリバー形口縁の平縁深鉢。口縁部は横回転のL.R.縄文を地紋とし、上限を三条、下限を四条の沈線で画した間に纏の沈線を密に施す。文様帶上下限の沈線は半截竹管状工具を用い、沈線間はカマボコ状断面を呈する。体部は全面横回転の結束第1種のL.R.縄文。原体の開端を飾った燃り紐の圧痕が綾格文として現れる。現存高25.0cm。

9-53



小出Ⅳ遺跡

大木7b式。口縁が屈曲して外傾する円筒形の深鉢。口縁に一箇所山形突起が付く。突起からは体部上半にかけて蛇行する隆帯が下り、口縁の屈曲部で一部水平方向にも伸びる。隆帯には半截竹管状工具の沈線が沿い、口縁屈曲部ではそれが断続的な押し引き文となって施文される。縄文は横回転のL.R.縄文。高さ26.4cm。

10-54



小出Ⅳ遺跡

大木7b式。やや膨らみを帯びた口縁が外傾する平縁の深鉢。口縁四箇所に低い突起が付く。口縁直下には原体の側面圧痕が水平に巡り、一箇所に重下する隆線を作った環状の粘土紐貼付が施される。口縁には結束第1種のR.L.・L.R.縄文が横回転され、体部では同じ原体が纏に回転施文される。現存高14.5cm。

10-55



小出IV遺跡

10-58

大木7b式。円筒形、平縁の深鉢。口縁上端に一条の沈線を巡らし、頸部にも浅い段を設けて、その間を口縁部文様帯とする。文様帯には上向き連弧文を沈線で描き、一箇所には人字形の粘土紐隆帯を貼り付ける。体部は織回転の結束第1種L R・R L 織文。現存高25.6cm。



高野遺跡

10-59

大木7b式。やや膨らみのあるキャリバー形口縁の深鉢。平縁である。器面全面に織回転のL R 織文を施し地紋とする。口縁部文様帯は織文原体の側面圧痕と隆帯の貼り付けをもって文様を施すが、上段では外側に張り出した突起上に螺旋文、その両側に枠状構図や波状文、下段では上段突起下に織二条の隆帯に挟まれて螺旋文、その両側の区画内に側面圧痕の枠状構図、および側面圧痕を作った山形隆帯が施される。体部は全面織回転のL R 織文。現存高25.5cm。



深渡遺跡

11-61

大木7b式。やや内湾する口縁の鉢。平縁であるが一箇所にわずかな高まりがある。上下限をごく低い粘土紐隆帯で画した口縁部文様帶に細い縦の二条隆帯を貼り付け、その間に縦文原体の側面圧痕で下向きの連弧文を施す。体部は全面に横回転のL R 織文を施すが、口縁部文様帶下に下向き弧状の側面圧痕が施される。高さ15.2cm。



深渡遺跡

11-62

大木7b式。やや内湾する口縁の鉢。平縁である。口縁部文様帶は低い二条の隆線を貼り付けた間に二条の織文原体側面圧痕を、また一部に人字形の粘土紐貼り付けを施す。体部は全面織回転のL R 織文であるが、口縁部文様帶下に下向き弧状の側面圧痕を施し、人字形粘土紐貼付の下ではY字形?の貼り付けが伴う。高さ16.7cm。



11-63

**小出IV遺跡**  
大木7 b式。屈曲外形容して聞く平縁の深鉢。口縁および体部とともに縦回転のR L 縄文を地紋とし、縄文原体の側面圧痕による文様が施される。口縁部文様帶では器面を五分割して上下縦の側面圧痕列を施したなかに蝶腹文を配置し、その両側に二重の枠状区画を側面圧痕で描く。体部にも口縁部文様帶に接して下向き弧状の圧痕が施される。なお、体部縄文には地紋のほかに二段の結節を設けたし縄文が縦に回転される部分がある。高さ39.5cm。



11-65

**小出IV遺跡**  
大木7 b式。体部から直線的に立ち上がる円筒形の深鉢。平縁である。縄文原体の側面圧痕と粘土紐貼付縫合帶とで口縁部文様を作る。口縁上端に短い側面圧痕列を、器面を四分割する位置に縦の粘土紐を貼り付け、間に二条の側面圧痕を施す。体部は縦回転のR L 縄文。現存高16.5cm。



11-66

**堂ノ沢遺跡**  
大木7 b式。屈曲外形容する口縁の深鉢。平縁であるが四単位の低い山形突起が付く。器面全面にR L 縄文を転がし地紋とし、口縁部文様帶は上下限に粘土紐縫合帯を巡らせたなかに波形に蛇行する粘土紐縫合帯を貼り付ける。底面にあたる部分には粘土瘤が貼り付けられる。高さ51.2cm。



12-67

**漆下遺跡**  
大木8 a式。キャリバー形口縁の深鉢。平縁である。地紋となるL R 縄文は口縁部で横回転、体部では縦回転である。口縁部文様帶は上下限を二条ずつの沈線で画し、その間に山形に二条沈線を連ねる。山形頂部の内側では沈線を渦巻状に入り組ませる。現存高27.8cm。



堂ノ沢遺跡

12-69

大木 8 a式。体部から口縁まで外反する深鉢。口縁外面に粘土紐を貼り付けて文様帶とし縦の短沈線列を施す。また、おそらくは向かい合う位置四箇所に、S字状しない上向きの溝巻文を伴った突起が付く。体部は縦回転のLR繩文を地紋とし、頭部に四条の平行沈線を巡らした下に二～三条の沈線でクランク状の構図を描く。水平に描かれる沈線は一部で連続した下向き連弧文となる。現存高18.3cm。



漆下遺跡

12-71

大木 8 a式。キャリバー形口縁の深鉢。平縁である。口縁上端に隆線貼り付けと沈線により扁平な精円区画を描き、四分割する位置に粘土瘤を貼り付けた突起を設ける。その下には小さな精円文を二段に描き、それを挟んでRL繩文を地紋とする枠状隆線・沈線を施す。体部は全面縦回転のRL繩文。現存高27.5cm。



漆下遺跡

12-72

大木 8 a式。71同様キャリバー形口縁の深鉢。口縁上に四箇所に突起を設け、その位置で直下にも外側に張り出す突起が付けられる。口縁部文様帶は上端の二条沈線の間に刺突列を施し、縦回転のLR繩文を地紋として突起下に二段の小円文、それを挟んで内側に工字状の区画をもつ棒状文が沈線によって描かれる。体部は全面縦回転のLR繩文。高さ39.5cm。



漆下遺跡

12-73

大木 8 a式。キャリバー形口縁の小形深鉢。平縁である。器全面に縦回転のLR繩文を施して地紋とし、口縁部文様帶では上限一条、下限二条の粘土瘤隆線の間に蛇行する隆線を貼り付ける。体部は同じく縦回転のLR繩文を地紋とし、上限を二条沈線、一条の隆線で画した下に一端を螺旋に巻いた垂重状の隆線を貼付する。高さ12.6cm。



**漆下遺跡** 12-74  
大木 8 a 式。口縁の内湾する平線の鉢。口縁部には丹念に調整を施した四条の沈線が引かれ、その下に縱回転のR L 繩文を地紋として、円弧状および末端を反転させた二条の隆脊が貼り付けられる。高さ11.4cm。



**堂ノ沢遺跡** 13-76  
大木 8 b 式。キャリバー形口縁の深鉢。口縁部文様帯から一箇所大きな装飾突起が上に伸びる。口縁から体部まで地紋として縱回転のL R 繩文を施したのち、沈線および粘土紐の貼り付けで文様を施す。口縁部文様帯ではクラシック状の粘土紐が貼り付けられる。体部は上限を四条の沈線で画し三条単位の沈線を重下させ、あるいは弧状モチーフを描くなどする。一部沈線が渦巻状に回る部分もある。高さ26.7cm。



**高野遺跡** 13-78  
大木 8 b 式。キャリバー形口縁の深鉢。口縁部は二箇所を高くし装飾突起とする。突起上には横位S字の貼付文が施され、貼付文を囲んで横回転のL R 繩文を地紋とし、沈線および細い粘土紐で連結した渦巻き状のモチーフが施される。口縁部下の頸部の無文帶を挟んだ体部文様帯では縱回転のL R 繩文を地紋として三条単位の沈線を重下させ、強状につなぎ、渦巻きにするなどの文様が施される。高さ31.5cm。



**天戸森遺跡** 13-80  
大木 8 b 式。キャリバー形口縁の鉢。口縁部では横回転のL R 繩文、体部では縱回転のL R 繩文を地紋とし文様が施される。文様は三条単位の沈線で弧線を連ね、部分で渦巻きを作り、さらに要所に劍先状のモチーフを配置する。高さ27.5cm。



岩瀬遺跡

14-83  
大木 8 b式。外反する低い波状口縁の深鉢。四単位の波頂部をもつ口縁となろう。口縁部文様帶には二条の粘土紐隆帯で狭く区画されたなかに、蛇行する隆帯を貼り付ける。頸部には三条の隆線を巡らすが、波頂部突起下で渦巻きの貼付を作る。体部は纒回転の無節し繩文。現存高24.4cm。



上野台遺跡

14-87  
大木 9式。体部からやや内湾して立ち上がる三単位の波状口縁深鉢。纒回転のLR繩文を地紋として丹念に調整された粘土紐の貼り付けで、渦巻文をモチーフにしての文様が器面に施される。渦巻文は相互に二条隆帯で連絡される。現存高15.0cm。



岩瀬遺跡

14-86  
大木 8 b式。口縁が内湾する平縁の大型鉢。纒回転のLR繩文を地紋とし、口縁部および体部の文様が丹念に調整された粘土紐隆帯で作られる。口縁部文様帶では横に展開する渦巻きと扁平な稜状文の組み合わせが七単位繰続し、体部では口縁部の渦巻きの下に下向き弧線と纒の渦巻きとが組み合った文様が施される。高さ29.5cm。



堀量遺跡

14-88  
大木 9式。14-87同様、体部からやや内湾して立ち上がる波状口縁の深鉢。波頂部は二単位。やはり87同様に主に纒回転のLR繩文を地紋として、丹念に調整された粘土紐貼付の渦巻文をモチーフにした文様が器面に施される。渦巻文は二条隆線で相互に連絡され、間の地紋部分が小さな区画に分割される。現存高19.2cm。



森吉家ノ前A遺跡

15-92  
大木9式。ほぼ直立して立ち上がる平縁の深鉢。体部には縦長の横円や日字形の区画が描かれ、縄文部と無文部を区画する。縄文は縦回転のL.R縄文。高さ41.5cm。



松木台III遺跡

15-91  
大木9式。上端がやや外反する平縁の深鉢。体部は縄文部と無文部を区画する比線で逆C字や縦の横円形、口形などの独立したアルファベット文が描かれ、その間を波形の蛇行沈線が巡る。アルファベット文内の縄文は基本的に縦回転のL.R縄文であるが、区画の展開する方向に沿って回転方向を変えた。現存高26.9cm。



松木台III遺跡

15-93  
大木9式。外反して開く平縁の深鉢。体部の文様は縄文部と無文部を区画する沈線によって、縦長の横円形と日字形の区画を繰り返す。無文部分は丹念に縦方向のミガキが施された。縄文は縦回転のL.R縄文。現存高36.2cm。



鳥野上岱遺跡

16-98  
大木9式。内済する平縁の深鉢。口縁部下に段が巡り竹管状工具による円形刺突列が二段にわたって施される。体部は左上→右下の方向で施したしの撚糸文を地紋とし、二条単位の沈線で日字形の構図が描かれる。なお、本土器は内面に天然アスファルトを精製した際の残滓が厚く付着する。高さ65.5cm。



**奥椿岱遺跡** 17-100  
大木10式。口縁～体部上半が大きくキャリバー形に膨らむ深鉢。平縁である。膨らんだ口縁～体部上半と体部下半とで二段の文様が、縄文部と無文部を分ける沈線によって描かれる。上段では五単位の溝巻状および梢円形の区画文が、下段でも縱長の梢円形ないし溝巻状?の区画文が配置される。現存高15.5cm。



**松木台III遺跡** 17-101  
大木10式。直に近く立ち上がる平縁の深鉢。口縁～体部上半に沈線によって縄文部と無文部を区画するW字あるいはU字状の文様が六単位描かれる。区画内の縄文はおもに縱回転の無節Lの縄文。高さ25.5cm。



**烏野上岱遺跡** 17-102  
大木10式。17-100同様に口縁～体部上半が大きくキャリバー形に膨らむ深鉢。平縁である。体部上半と下半との二段の文様が、沈線により縄文部と無文部を分けて施される。上半ではC字および逆C字形の区画を対向させ、間に縱長の梢円形区画文を、下段では蛇行する帯状区画文を配置する。縄文はL.R原体で区画に沿って回転方向を変える。16-98と同じ整穴建物内で中体土器として出土。内部にアスファルト積製時の残滓が厚く付着する。高さ22.6cm。



**太田遺跡** 17-103  
大木10式。やや外反する口縁の深鉢。平縁である。体部上半が広い文様帶となり沈線で縄文部と無文部を分ける文様が描かれるが、大きく振幅して入り組むS字形区画文を配置する。体部には蛇行する沈線を巡らす。縄文はL.R原体で区画に沿って回転方向を変える。現存高11.6cm



**上野遺跡** 18-108  
大木10式。口縁部が外傾して開く深鉢。平縁である。口縁以下全面に地紋として縱回転のRL繩文を施し、上下二段にわたり波頭状の沈線を巡らす。上段沈線は大きく入り組ませる。沈線によって繩文部と無文部を区画することはない。高さ23.8cm。



**石坂台Ⅳ遺跡** 18-109  
大木10式。大形深鉢の膨らんだ体部下半。口縁から体部上半を欠く。隆線によって繩文部と無文部を区分し、上半はS字形に下半は波頭状に展開する文様を描く。繩文は縱回転のR L繩文。現存高33.0cm。



**上野遺跡** 18-110  
大木10式。口縁四箇所に突起をもつ波状口縁深鉢。突起は上端で二叉に分かれる。地紋として縱回転のL R繩文を施し、上段に大きく入り組んだ波頭状の沈線、下段に蛇行する沈線を巡らす。二条の沈線の間は無文となる。高さ27.8cm。



**堀量遺跡** 18-111  
大木10式。内済する口縁一端に装飾突起を付けた鉢。平縁である。突起は中央に穴が開き注口状であるが、穴は貫通していない。突起両側から隆線が伸び口縁下を巡り、体部には隆線によって繩文部と無文部を区分した文様が描かれる。大きく波頭状に入り組んだ隆線が突起下で向かい合せとなり、突起に直交する位置で隆線は底部に向かってまっすぐに下りる。突起と反対側の面にも同じ文様が描かれる。地紋はRL繩文で区画に沿って方向を変えて回転する。高さ14.1cm。



堀量遺跡

大木10式。上端がわずかに外反する平縁の深鉢。隆線によって縄文部と無文部を区画し、横位のY字形のモチーフを入れ子にして連ねる。モチーフが他と接することはない。体下半部にも緩やかな波形の隆線を貼り付ける。縄文は纏回転のR L 縄文。現存高34.2cm。



湯瀬館跡

大木10式。口縁部が狭く体部が張り出した平縁の広口鉢。口縁から肩にかけては無文で体部に纏長の逆U字形隆帯が六單位貼り付けられる。隆帯の縁は沈線が沿う。隆帯間も緩い弧状の沈線が引かれ、体部の縄文と口縁部の無文部分とを画している。縄文は左上→右下の方向で回転したR L 縄文。高さ54.7cm。



堀量遺跡

大木10式。外反する口縁の深鉢。平縁であり体部は丸みを帯びる。口縁の内側が肥厚し段を作る。口縁直下から浅く幅広の沈線によって縄文部と無文部を区画しY字形のモチーフが互いに接しながら描かれる。縄文は纏回転のR L R 複節縄文。高さ23.6cm。



堀量遺跡

大木10式。外傾する平縁の鉢。口縁部は無文で頸部の屈曲部以下に、隆線による縄文部と無文部の区画でD字形のモチーフが互いに接しながら施される。縄文は区画内で回転方向を変えるが、おむね纏回転のR L R 複節縄文。現存高23.3cm。



**高野遺跡** 21-125  
大木10式。体部が直線的に開き内屈した口縁に突起が付く深鉢。口縁の突起は大小がそれぞれ四単位ずつ交互に配置する。八の字状に隆帯を貼り付けた大突起表面に縱長の刺突が充填される。その両脇は体部の文様帶上限を画する隆帯となって小突起まで連絡する。隆帯には大突起表面の刺突同様の短沈線列が沿う。体部はノの字状の繩文部と無文部の区画が沈線で描き分けられ、区画の単位が接する部分には鱗状隆帯が貼付される。繩文はR Lの纏回転。高さ24.1cm。



**はりま館遺跡** 22-129  
大木10式。口縁部のやや内屈する平縁の深鉢。口縁部には鱗状隆帯が八の字状に施され、それに沿った刺突列が体部文様帶上限の隆帯上まで伸びる。鱗状隆帯の下にはボタン状の貼瘤が施され、その下に纏回転のLR繩文を地紋としてJ字状のモチーフが沈線によって描かれる。それぞれのモチーフは弧線および反転弧線によって連結される。高さ29.8cm。



**家の下遺跡** 22-130  
大木10式。わずかに屈曲し外傾する波状口縁の深鉢。波頂部には大突起と小突起が交互に四単位ずつ配置する。大突起では円孔を圓んだ隆帯が下に伸び体部文様帶上限を画する隆帯と連結し、小突起に縦に貼り付けられた隆帯とも連結する。体部文様は隆帯のノの字形を描き繩文部と無文部を区画する。モチーフの連結部および下限隆帯には刻目が施される。現存高26.0cm。



**上野台遺跡** 22-132  
大木10式。やや内屈した口縁部に四単位の突起を付けた深鉢。突起外面には沈線による円文があり、内面もその位置で丸い凹みがある。体部との屈曲部には、斜めに押し当たった棒状工具による刺突列が施される。体部は全面纏回転のLR繩文。高さ28.5cm。



太田遺跡

22-127

大木10式。直立に近く立ち上がる小波状口縁の深鉢。口縁上に高低の突起を繰り返し設け、うち高い突起部分から粘土紐隆帯を腹に貼り付け、体部上半の文様帶上限の隆帯と連結させる。体部上半には沈線により縱長の團扇状の区画のなかに葉脈状文を描く。体部下半は縱回転のRし麗文。現存高20.0cm。



太田遺跡

22-128

大木10式。直立て立ち上がる平縁の深鉢。口縁下に筋状隆帯を貼り付け、それを上限として團扇状区画を描いたなかに葉脈状文を描く。現存高20.0cm。



松木台III遺跡

22-131

大木10式。四單位の大突起をもつ波状口縁深鉢。体部下半はやや丸みをもち、上半は外傾して開く。口縁内外は段をもって肥厚させ、対向する同土を一組とした突起がその上に付けられる。突起は口縁内外を橋状に連絡する一組と、漏斗状の外面にさらに円盤状に粘土帶を貼り付けた一組とに分かれれる。体部上半は隆線で区画された縄文部と無文部によって逆J字形のモチーフが、下半は同様に構内のモチーフが施される。J字末端は筋状に隆起する。縄文はLR原体で区画内で方向を変え施文されるが、広い部分については縱回転である。現存高34.5cm。

秋田県埋蔵文化財基準資料2  
縄文時代土器集成Ⅱ(中期)

発行年月 平成26年3月

編集・発行 秋田県埋蔵文化財センター  
〒014-0802  
秋田県大仙市払田字牛嶋20番地  
電話 0187-69-3331  
FAX 0187-69-3330  
URL [http://www.pref.akita.jp/  
gakusyu/maibun\\_hp/index2.htm](http://www.pref.akita.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm)  
E-mail [maibun@pref.akita.lg.jp](mailto:maibun@pref.akita.lg.jp)



---